

XyXon, Inc.
www.xyxon.co.jp
support@xyxon.co.jp

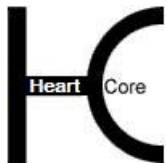
XyXon, Inc.

HeartCore

Web コンテンツ管理システム

インストールガイド

簡単・安価に Web サイトを作成・公開・管理



著作権・機密情報

著作権 株式会社ジゾン 1999–2015。当ユーザガイドは株式会社ジゾンの機密情報により構成されています。本書の無断複製、複写、転写、情報検索方式での格納、又は、いかなる言語への翻訳においても株式会社ジゾンの許可無しでは固く禁じられています。

注意

株式会社ジゾンは、本書の記載内容において、何時でも予告なく変更することがあります。また、本書において明示または黙示を問わず、一切保証致しません。株式会社ジゾンはいかなる場合においても、購入した際および本書の使用時、またはこれに含まれる情報によって生じた間接的、特別かつ偶発的損害に関しての責任を負いません。

ライセンスおよび商標

HeartCore Web コンテンツ管理や HeartCore ロゴは商標であり、株式会社ジゾン独自の登録商標です。また、その他の企業、製品、トレードネームは商標であり、各所有者の登録商標です。

HeartCore Web コンテンツ管理は wz_dragdrop.js ライブラリを使用しています。このライブラリは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/copyleft/lesser.html>) 規約に基づいてライセンスされています。Copyright (c) 2002-2003 Walter Zorn (www.walterzorn.com)。

HeartCore Web コンテンツ管理は wz_jsgraphics.js ライブラリを使用しています。このライブラリは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/copyleft/lesser.html>) 規約に基づいてライセンスされています。Copyright (c) 2002-2004 Walter Zorn (www.walterzorn.com)。

HeartCore Web コンテンツ管理は Dynarch DHTML Calendar ライブラリを使用しています。このライブラリは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>) 規約に基づいてライセンスされています。Copyright (c) 2002-2005 Mihai Bazon (<http://www.bazon.net/mishoo> - <http://www.dynarch.com/projects/calendar>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Kryogenix sortable ライブラリを使用しています。このライブラリは、MIT License (<http://www.kryogenix.org/code/browser/license.html>) 規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 1997-2005 Stuart Langridge (<http://www.kryogenix.org/code/browser/sortable/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は SWFupload コンポーネントとライブラリを使用しています。このライブラリは MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>)規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2006-2007 Lars Huring, Olov Nilzén and Mammon Media, and Copyright (c) 2007-2008 Jake Roberts (<http://www.swfupload.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Prototype ライブラリを使用しています。このライブラリは MIT License (<http://www.kryogenix.org/code/browser/license.html>) 規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2005 Sam Stephenson (<http://prototype.conio.net/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Scriptaculous ライブラリを使用しています。このライブラリはフリーソフトウェアとしてライセンスされています。 Copyright (c) 2005 Thomas Fuchs (<http://script.aculo.us/>).

HeartCore Web コンテンツ管理は Rico ライブラリの一部を使用しています。このライブラリは the Apache License, Version 2.0.規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2005 Sabre Airline Solutions (<http://openrico.org/>).

HeartCore Web コンテンツ管理は Rico Livegrid Plus ライブラリを使用しています。このライブラリは the Apache License, Version 2.0.規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2006 Matt Brown (<http://dowdybrown.com/>).

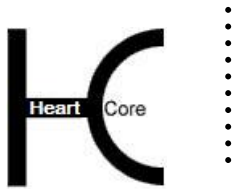
HeartCore Web コンテンツ管理は Lightbox library ライブラリを使用しています。このライブラリは Creative Commons Attribution 2.5 License (<http://creativecommons.org/licenses/by/2.5/>)に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2006 Lokesh Dhakar (<http://www.huddletogether.com/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は TableKit ライブラリを使用しています。このライブラリはフリーソフトウェアとしてライセンスされています。 Copyright (c) 2007 Andrew Tetlaw & Millstream Web Software (<http://www.millstream.com.au/view/code/tablekit/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は jQuery ライブラリを使用しています。このライブラリは MIT License (<http://jquery.org/license/>) 規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2011 John Resig (<http://jquery.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は jsTree ライブラリを使用しています。このライブラリは MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>) 規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2010 Ivan Bozhanov (<http://jstree.com/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は JavaBeans Activation Framework ライブラリを使用しています。このライブラリは Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) Sun Microsystems (<http://www.sun.com/>)



HeartCore Web コンテンツ管理は JavaMail ライブラリを使用しています。このライブラリは Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2009 Sun Microsystems (<http://www.sun.com/>)

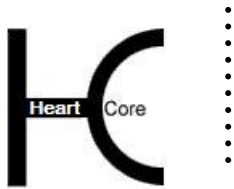
HeartCore Web コンテンツ管理は Apache Jakarta JCS ライブラリを使用しています。このライブラリは Apache License, Version 2.0 に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2001-2007 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache Commons Logging ライブラリを使用しています。このライブラリは Apache License, Version 2.0 に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2003-2007 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache log4j ライブラリを使用しています。このライブラリは Apache License, Version 2.0 に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2010 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は concurrent ライブラリを使用しています。このライブラリはフリーソフトウェアとしてライセンスされています。 Copyright (c) Doug Lea (<http://gee.cs.oswego.edu/dl/classes/EDU/oswego/cs/dl/util/concurrent/intro.html>)

HeartCore Web コンテンツ管理は slidetabs ライブラリを使用しています。 Copyright (c) WebStack (<http://www.slidetabs.com/>)



HeartCore

Web コンテンツ管理システム

簡単・安価に Web サイトを作成・公開・管理

はじめに

本書は、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムのインストールガイドです。Web サイトを作成、公開、管理するにあたり、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムをインストール、設定する方法について記しています。

Web やデータベースサーバに精通している方であれば、HeartCore Web コンテンツ管理システムをインストールし、設定することは簡単な作業であり、数分で完了します。

本書は、7つのパートに大別されます。

パート1では、システム要件と、HeartCore Web コンテンツ管理システムをインストールする前に必要な知識や作業についてご説明します。

パート2では、HeartCore Web コンテンツ管理システムのプログラムファイルのダウンロード及びインストール方法についてご説明します。

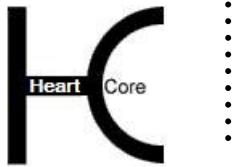
パート3では、自身のデータベースにて HeartCore Web コンテンツ管理システムを Web サイト上で動作させるための最小限の初期クイックスタート設定についてご説明します。

パート4では、HeartCore Web コンテンツ管理システムをインストール、設定した後の操作についてご説明します。

パート5では、HeartCore Web コンテンツ管理システムのプログラムファイル及び、データベースの最新版へのアップグレード方法についてご説明します。

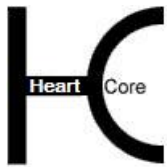
パート6では、HeartCore Web コンテンツ管理システムを、デフォルトで含まれている言語からその他言語への翻訳方法、また代替言語の使用方法について説明します。

パート7では、プログラミング API スクリプト、カスタム追加モジュールや拡張、サードパーティ製追加モジュールや拡張について、インストール及び設定方法をご説明します。

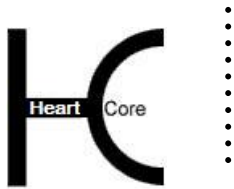


目次

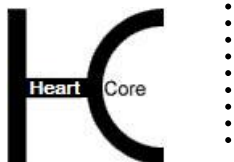
はじめに	4
目次.....	5
1 システム要件.....	8
2 ダウンロードとインストール	10
2.1 .NET 版のインストールおよびサーバ設定	11
2.2 JSP 版のインストールおよびサーバ設定.....	11
2.3 スペルチェック	11
2.4 Amazon Web Services (AWS) クラウドデプロイメント	12
2.4.1 Elastic Beanstalk.....	12
2.4.2 環境とプラットフォーム.....	13
2.4.3 アップロード	14
2.4.4 ドメイン名	14
2.4.5 データベース	15
2.4.6 ハードウェア	15
2.4.7 データベースサーバ	16
2.4.8 デプロイメント	16
2.4.9 クラウドストレージ	18
2.4.10 クイックスタート設定.....	21
2.4.11 接続タイムアウト	22
2.5 Microsoft Azure クラウドデプロイメント	22
2.5.1 Microsoft Azure.....	22
2.5.2 データベース	25
2.5.3 クラウドストレージ	27
2.5.4 設定	32
2.5.5 ハードウェア	34
2.5.6 アップロード	35
2.5.7 クイックスタート設定.....	37
3 クイックスタート設定	38
3.1 サーバ.....	38
3.2 データベース	39
3.2.1 .NET 用データベース接続.....	40
3.2.2 JSP 用データベース接続.....	41
3.2.3 PHP 用データベース接続	44
3.2.4 データベース接続文字列.....	44



3.3	ライセンス	45
3.4	スーパーユーザ（全体管理者）	46
3.5	Web サイトコンテンツ	47
3.5.1	既存 Web サイトのインポート	47
3.5.2	サンプルクイックスタート Web サイトのインポート	48
3.6	Web サイトデザイン	49
3.7	Web サイト設定	50
4	インストール及び設定完了後	51
4.1	ログイン	52
4.2	ログアウト	52
4.3	スーパーユーザのユーザ名とパスワード取得	53
4.4	ホーム	53
5	ソフトウェア更新	55
5.1	ダウンロードとインストール	55
5.2	データベースアップグレード	56
6	国際化	57
6.1	HeartCore Web コンテンツ管理システムのテキスト	57
6.2	HeartCore Web コンテンツエディタのテキスト	57
6.3	Web サイト管理者の言語選択	59
7	追加モジュール、拡張、プログラミング API スクリプト	60
7.1	カスタム / サードパーティ製追加モジュール	60
7.1.1	インストールと設定	60
7.2	カスタム / サードパーティ拡張	60
7.2.1	インストールと設定	60
7.3	商品在庫確認・商品配信 カスタム / サードパーティ拡張	61
7.3.1	商品在庫確認 カスタム / サードパーティ拡張	61
7.3.2	商品配信 カスタム / サードパーティ拡張	61
7.4	ワークフローアクションカスタム / サードパーティ拡張	61
7.4.1	インストールと設定	61



7.5	Web コンテンツエディタカスタム/サードパーティ拡張	61
7.5.1	インストールと設定	62
7.6	プログラミング API スクリプト	62
7.6.1	インストールと設定	62
7.6.2	外部 Web サイト公開/アーカイブ プログラミング API	62
7.6.3	ファイルアップロード プログラミング API	62
7.6.4	コンテンツデータ検証 プログラミング API	63
7.6.5	ユーザデータ認証 プログラミング API	64
7.6.6	メディアクラウドストレージ API	64
7.6.7	クラウドデプロイメント API	65
7.6.8	Usagelog データ要約.....	66



1 システム要件

HeartCore Web コンテンツ管理システムは非常に柔軟性があり、オペレーティングシステム、Web サーバ、プログラミング/スクリプト言語、データベースサーバに関し、ほとんどの主要な Web サイトプラットフォーム上で動作するという点で優れています。お使いの Web サイトのプラットフォームが何であっても、おそらくサポートされているでしょう。

例えば、Microsoft Windows・Internet Information Server・Active Server Pages・Access といったプラットフォームを、Unix・Apache・Java Server Pages・Oracle といった他のプラットフォームに切り替える必要があったとしても、そのまま現状の HeartCore Web サイト管理システムを継続してご利用いただけます。他の Web コンテンツ管理システムを購入したり、Web サイトを再開発したり、Web サイト管理者を再教育する必要はございません。

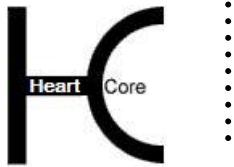
HeartCore Web コンテンツ管理システムは、以下の Web サイトプラットフォームで動作します。

Web サイトプラットフォーム	サポート製品
オペレーティングシステム	Microsoft Windows Unix/Linux
Web サーバ	Microsoft Internet Information Server Apache (+ 標準に準拠した他の全ての Web サーバ)
プログラミング/スクリプト言語	.NET(2.0 以上) JSP (Java 1.6 以上) PHP (5.x で、PHP PEAR MDB2 を使用)
データベースサーバ	Microsoft SQL Server Oracle Database Server IBM DB2 Universal Database Server MySQL Database Server PostgreSQL Database Server
Web ブラウザ (Web サイト管理者)	Microsoft Windows Internet Explorer (v8.0 以上) Mozilla Firefox (v3.0 以上) Safari (v2.0.1 以上) Google Chrome (v2.0 以上) 旧バージョン及びその他の Web ブラウザでも、完全あるいは部分的に動作する場合があります。
Web ブラウザ (Web サイトユーザ、訪問者)	標準に準拠したブラウザ全て

HeartCore Web コンテンツ管理システムがサポートする Web サイトプラットフォームソフトウェアは、最新に近いバージョンのみということにご注意ください。機能面、セキュリティ面の問題を避けるためにも、Web サイトプラットフォームソフトウェアが最新版にアップデートされているか、少なくとも最新に近いバージョンであるかどうか、常に注意していただく必要があります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムをインストールする前に、以下のことをご確認ください。

- オペレーティングシステム、Web サーバ、プログラミング/スクリプト言語、データベースサーバ、データベースドライバ、Web ブラウザがインストールされており、正常に動作する。



- Web サーバや Web サイトディレクトリ／フォルダへのアクセス権限があり、FTP（ファイル転送プロトコル）や Microsoft Networking 等でのファイルのコピーが可能である。
- HeartCore Web コンテンツ管理システム Web サーバプロセス／ユーザは、次の Web サイトファイルやフォルダに対する作成および書き込み権限を有すること。
 - /
 - /defaults.aspx /defaults.jsp /defaults.php
 - /ini.aspx /ini.jsp /ini.php
 - /file/
 - /image/
 - /upload/
- データベースサーバ上に空のデータベースインスタンスが作成されており、接続、テーブルの作成／削除、レコードの作成／削除の権限を有すること。
- データベースインスタンス名、ユーザ名、パスワード、並びに Web サイトからデータベースに接続する権限を有している。



2 ダウンロードとインストール

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、ジゾンの Web サイト (www.xyxon.co.jp) よりダウンロードすることができます。このソフトウェアは様々なパッケージやフォーマットで提供されています。詳細は Web サイトをご確認ください。

ダウンロードされたパッケージは、圧縮されたアーカイブファイルになっており、Web サーバへインストールするには、解凍して抽出する必要があります。もしくは、圧縮されたファイルアーカイブを、クラウドウェブホスティングサービスへ展開します。パッケージには、大量のフォルダやファイルが含まれています。ダウンロードするパッケージによりませんが、ルートフォルダやファイルは、例えば次のようになっています。

App_Code/	element.aspx	page.original.aspx	shopcart.aspx
file/	element.jsp	page.original.jsp	shopcart.jsp
image/	element.php	page.original.php	shopcart.php
password/	file.aspx	post.aspx	stylesheet.aspx
personal/	file.jsp	post.jsp	stylesheet.jsp
upload/	file.php	post.php	stylesheet.php
webadmin/	image.aspx	product.aspx	stylesheet.original.aspx
WEB-INF/	image.jsp	product.jsp	stylesheet.original.jsp
atom.aspx	image.php	product.php	stylesheet.original.php
atom.jsp	index.aspx	product.original.aspx	subscribe.aspx
atom.php	index.jsp	product.original.jsp	subscribe.jsp
config.aspx	index.php	product.original.php	subscribe.php
config.jsp	link.aspx	register.aspx	template.aspx
config.php	link.jsp	register.jsp	template.jsp
config.static.aspx	link.php	register.php	template.php
config.static.jsp	login.aspx	rss.aspx	unavailable.aspx
config.static.php	login.jsp	rss.jsp	unavailable.jsp
contact.aspx	login.php	rss.php	unavailable.php
contact.jsp	login_post.aspx	script.aspx	unsubscribe.aspx
contact.php	login_post.jsp	script.jsp	unsubscribe.jsp
contentitem.aspx	login_post.php	script.php	unsubscribe.php
contentitem.jsp	logout.aspx	script.original.aspx	webadmin.aspx
contentitem.php	logout.jsp	script.original.jsp	webadmin.jsp
data.aspx	logout.php	script.original.php	webadmin.php
data.jsp	page.aspx	search.aspx	xml.aspx
data.php	page.jsp	search.jsp	xml.jsp
default.gif	page.php	search.php	xml.php

HeartCore Web コンテンツ管理システムのいくつかのファイルは、既存の Web サイトファイルと同じ名前が付けられる可能性があります。その場合、既存ファイルは上書きされます。

HeartCore Web コンテンツ管理システムをインストールする前に、既存の Web サイトファイルすべてをバックアップしてください。

HeartCore Web コンテンツ管理システムをインストールする際は、下位ファイルやサブフォルダを含むすべてのファイルとフォルダを、Web サーバの Web サイトルート/ホームフォルダにコピーしてください。ただし、.NET ソフトウェアパッケージの場合は、“Content\Default Web Site” フォルダから、下位ファイルやサブフォルダを含むすべてのファイルとフォルダを、Web サーバの Web サイトルート/ホームフォルダにコピーしてください（それ以外のフォルダやファイルは、クラウドデプロイメントでのみ使用します）。Web サイトルート/ホームフォルダとは、メインのホームページファイルが配置されている場所です。



2.1 .NET 版のインストールおよびサーバ設定

HeartCore Web コンテンツ管理システムの.NET バージョンは、最小限の“web.config” Web サーバ設定ファイルと“global.asax”プログラムファイルを含んでいます。もし既存の“web.config” Web サーバ設定ファイルあるいは“global.asax”プログラムファイルが存在する場合は、それらのファイルを HeartCore Web コンテンツ管理システムの“web.config” Web サーバ設定ファイルおよび“global.asax”プログラムファイルとマージする必要があります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムの.NET バージョンは、デフォルトでは、.NET2.0-3.5 の Web サーバ上で動作するよう設定されています。.NET4.0 をお使いの場合は、“web.config” Web サーバ設定ファイルを編集して、“<httpRuntime requestValidationMode="2.0" />”を非コメント化（前後の“<!--”と“-->”を削除します）する必要があります。そうしなければ、特殊文字を含むコンテンツの保存ができないなど、正しく動作しない可能性があります。

2.2 JSP 版のインストールおよびサーバ設定

HeartCore Web コンテンツ管理システムの JSP バージョンにも、最小限の“/WEB-INF/web.xml” Web サーバ/アプリケーションサーバ設定ファイルと、複数の“/WEB-INF/lib/” jar プログラムファイルが含まれています。もし既存の“/WEB-INF/web.xml” Web サーバ/アプリケーションサーバ設定ファイルが存在する場合は、HeartCore Web コンテンツ管理システムの“/WEB-INF/web.xml” Web サーバ/アプリケーションサーバ設定ファイルとマージする必要があります。また、もしお使いの Web サーバ/アプリケーションサーバに、既にいくつかの“/WEB-INF/lib/” jar プログラムファイルが存在する場合は、HeartCore Web コンテンツ管理システムに含まれているそれらのファイルは無視して、既存のファイルをご使用ください。ただし、Web サーバ/アプリケーションサーバの他の場所に、既にいくつかの“/WEB-INF/lib/” jar プログラムファイルが存在する場合には、競合を避けるためそれらのファイルは削除してください。例えば、“activation.jar”と“mail.jar”プログラムファイルが、既に Web サーバ/アプリケーションサーバに存在していて、これらのコピーが“/WEB-INF/lib/”フォルダにも存在する場合、HeartCore Web コンテンツ管理システムの E メール機能が正しく動作しない可能性があります。

2.3 スペルチェック

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、Aspell (aspell.net) スペルチェックアプリケーションを利用した Web コンテンツの統合スペルチェックをサポートします。

スペルチェック機能を有効にするには、Web サーバに Aspell アプリケーションと辞書をダウンロードする必要があります。Aspell は aspell.net から無料でダウンロードすることができます。Aspell のインストール方法については、Aspell のドキュメンテーションを参照してください。

Aspell を Web サーバにインストールしたら、HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定し、Web サーバ内の Aspell のインストール場所と、使用する辞書を指定する必要があります。これらは、“webadmin/webeditor”フォルダ配下の“config.asp”、“config.jsp”、“config.php”ファイルで設定されます。

構成ファイル内に、次の変数を設定してください。

spellcheckCommand	インストール済み Aspell のフルパスとファイル名、及びスペルチェックで使用するコマンドラインパラメータを指定します。
-------------------	---

	<p>デフォルトでは： Microsoft Windows の場合： “C:\Progra~1\Aspell\bin\aspell.exe -a -H”</p> <p>Linux、マッキントッシュ、Unix の場合： “/usr/bin/aspell -a -H” あるいは “/usr/local/bin/aspell -a -H”</p> <p>スペルチェックへのアクセスを無効にするには、空白 (“”) に設定してください。</p>
spellcheckDictionary	<p>スペルチェックに使用される辞書を指定するための、Aspell コマンドラインパラメータです。デフォルトでは: “-d”</p>
spellcheckDictionaries	<p>スペルチェックでユーザが使用可能な辞書。</p> <p>HTML SELECT OPTION タグとして指定する必要があります。OPTION 値は、“en”、“en_GB”、“en_US”のような言語/国コード、あるいは “english”、“british”、“American” のような言語名といった Aspell の辞書名を使用します。詳細については Aspell 辞書のドキュメンテーションをご参照ください。</p>

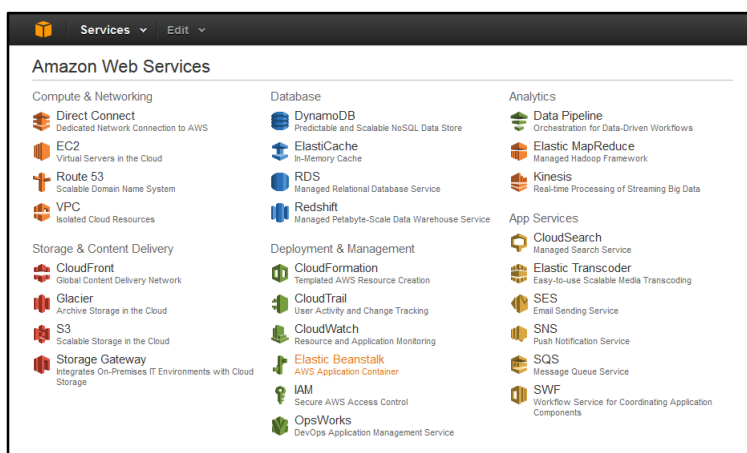
2.4 Amazon Web Services (AWS) クラウドデプロイメント

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、クラウドホスティングサービスの Amazon Web Services へ容易にデプロイすることができます。使用するオペレーティングシステムとデータベースサーバ、およびサーバの数とサイズを選択して、HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアパッケージをアップロードするだけです。

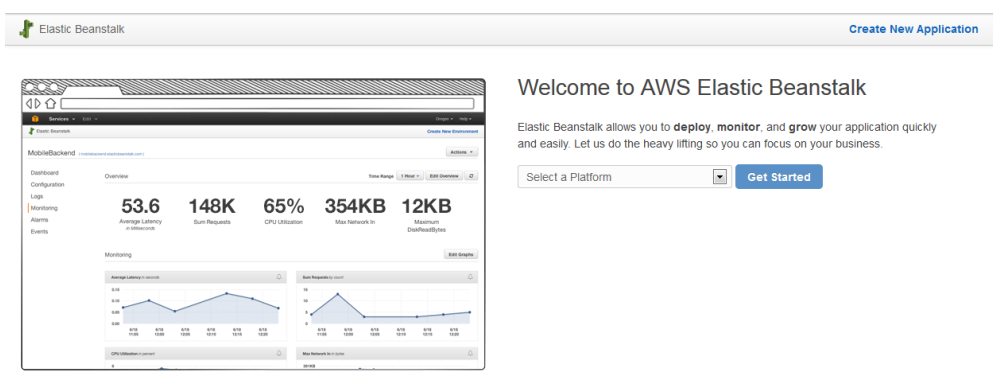
2.4.1 Elastic Beanstalk

Amazon Web Services (AWS) クラウドデプロイメントを使用するには、<http://aws.amazon.com/> へアクセスしてアカウントを登録し、AWS マネジメントコンソールへ進みます。高度な要件向けに、多くの様々な AWS クラウドサービスが用意されています。HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアは、AWS Elastic Beanstalk サービスを使用して、簡単にデプロイすることができます。

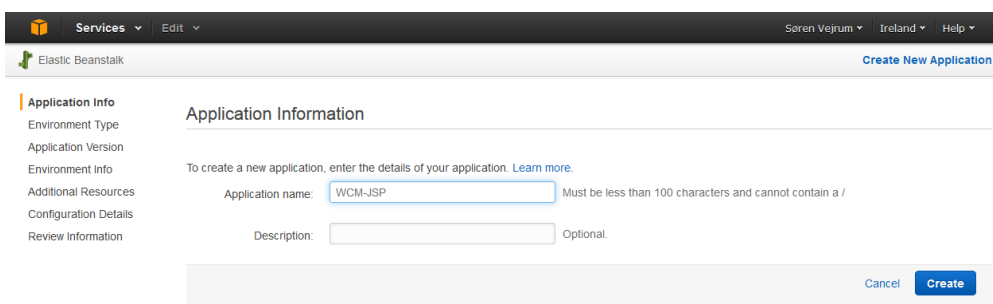
尚、AWS のサービスやインターフェース、およびオプションは、変更になる可能性がありますのでご注意ください。詳細は、AWS の一般的なドキュメンテーションをご確認ください。



HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアをデプロイするには、まず「Create New Application (新規アプリケーションを作成)」を選択します。



アプリケーション名を入力します。例：WCM-JSP、WCM-NET、WCM-PHP 入力したら、「Create (作成)」をクリックします。

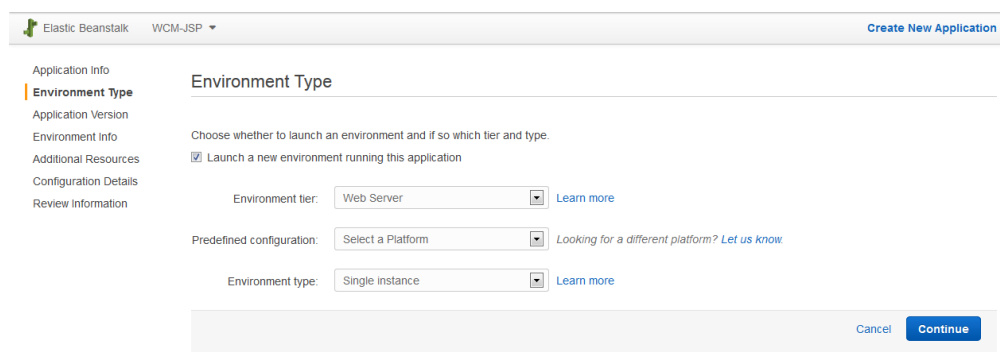


2.4.2 環境とプラットフォーム

HeartCoe Web コンテンツ管理デプロイメントで起動する環境タイプを選択します。

- Environment tier (環境枠)
 - Web Server (ウェブサーバ)
- Platform (プラットフォーム) :

- IIS
.NET プログラミング言語バージョンの HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェア向け
 - PHP
PHP プログラミング言語バージョンの HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェア向け
 - Tomcat
JSP/Java プログラミング言語バージョンの HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェア向け
- Environment type (環境タイプ) :
 - Single instance (単一インスタンス)
単一 Web サーバで、キャパシティが固定されたシンプルなセットアップ向け
 - Load balancing, autoscaling (ロードバランシング、オートスケーリング)
複数 Web サーバを使った、キャパシティに拡張性のある高度なセットアップ向け



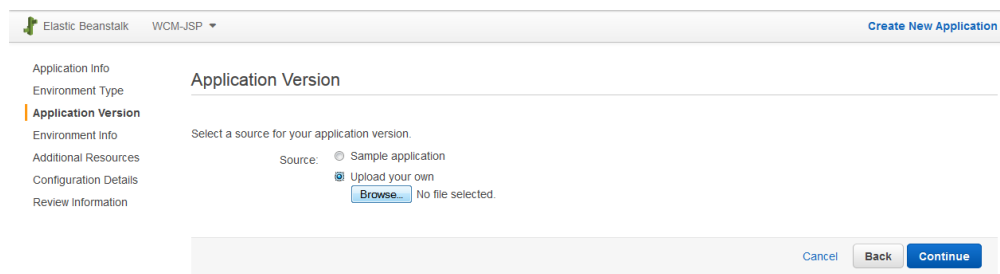
The screenshot shows the 'Environment Type' configuration page in the AWS Elastic Beanstalk console. The page title is 'Environment Type'. On the left, there is a navigation menu with options: Application Info, Environment Type (selected), Application Version, Environment Info, Additional Resources, Configuration Details, and Review Information. The main content area contains the following settings:

- Choose whether to launch an environment and if so which tier and type.
 - Launch a new environment running this application
- Environment tier: Web Server (dropdown menu) [Learn more](#)
- Predefined configuration: Select a Platform (dropdown menu) [Looking for a different platform? Let us know](#)
- Environment type: Single instance (dropdown menu) [Learn more](#)

At the bottom right, there are 'Cancel' and 'Continue' buttons.

2.4.3 アップロード

HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアパッケージの ZIP ファイルをアップロードします。アップロードしたソフトウェアパッケージは、選択したプラットフォームに合致しなければなりません。即ち、HeartCoreWCM.net.zip は IIS、HeartCoreWCM.php.zip は PHP、HeartCoreWCM.jsp.zip は Tomcat です。お使いのインターネット接続スピードによっては、アップロードに数分掛かる場合があります。



The screenshot shows the 'Application Version' configuration page in the AWS Elastic Beanstalk console. The page title is 'Application Version'. On the left, there is a navigation menu with options: Application Info, Environment Type, Application Version (selected), Environment Info, Additional Resources, Configuration Details, and Review Information. The main content area contains the following settings:

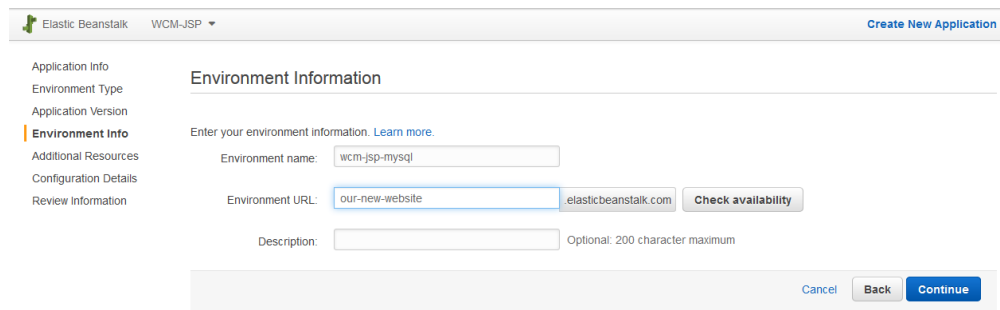
- Select a source for your application version.
 - Source:
 - Sample application
 - Upload your own
 - No file selected.

At the bottom right, there are 'Cancel', 'Back', and 'Continue' buttons.

2.4.4 ドメイン名

管理目的での名前と、固有の環境 URL を入力します。この環境 URL を使って、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデプロイメントと、ご自身の新しい Web サイトへアクセスすること

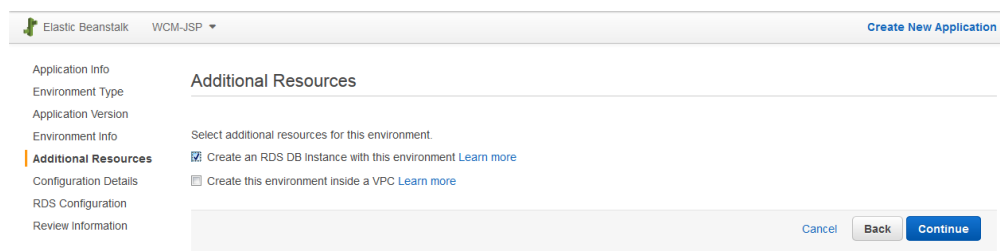
ができます。（ドメイン名を後から追加することもできます。詳しくは、AWS のドキュメンテーション、並びにお使いのドメインネームサービスプロバイダへご確認ください。）



The screenshot shows the 'Environment Information' page in the AWS console. The environment name is 'wcm-jsp-mysql' and the environment URL is 'our-new-website'. There are 'Check availability', 'Cancel', 'Back', and 'Continue' buttons.

2.4.5 データベース

HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、Web サイトコンテンツや他のデータを保管するため、データベースサーバインスタンスが必要です。

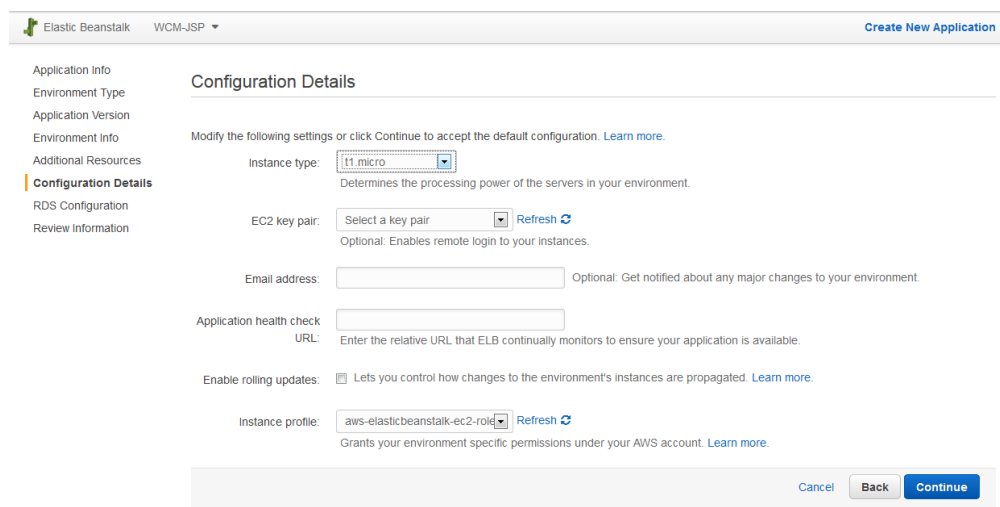


The screenshot shows the 'Additional Resources' page in the AWS console. The 'Create an RDS DB Instance with this environment' checkbox is checked. There are 'Cancel', 'Back', and 'Continue' buttons.

2.4.6 ハードウェア

デプロイした Web サーバに使用するインスタンスタイプ（ハードウェアのキャパシティ）を選択します。キャパシティと価格についての詳細は、AWS のドキュメンテーションをご参照ください。

任意で、デプロイしたサーバや、E メール通知、アプリケーションヘルスチェックモニタリングへのリモートログインを有効化することも可能です。



The screenshot shows the 'Configuration Details' page in the AWS console. The instance type is 't1.micro'. There are 'Cancel', 'Back', and 'Continue' buttons.

2.4.7 データベースサーバ

デプロイしたデータベースサーバに使用するデータベースサーバエンジン（mysql、postgres、oracle、sqlserver のいずれか）、およびインスタンスクラス（ハードウェアキャパシティ）を選択します。キャパシティと価格についての詳細は、AWS のドキュメンテーションをご参照ください。

そして、割り当てる容量、およびユーザ名とパスワードを入力します。

重要：下記、保持設定オプションの違いについてご認識ください。

- Retention Setting（保持設定）

- Delete（削除）

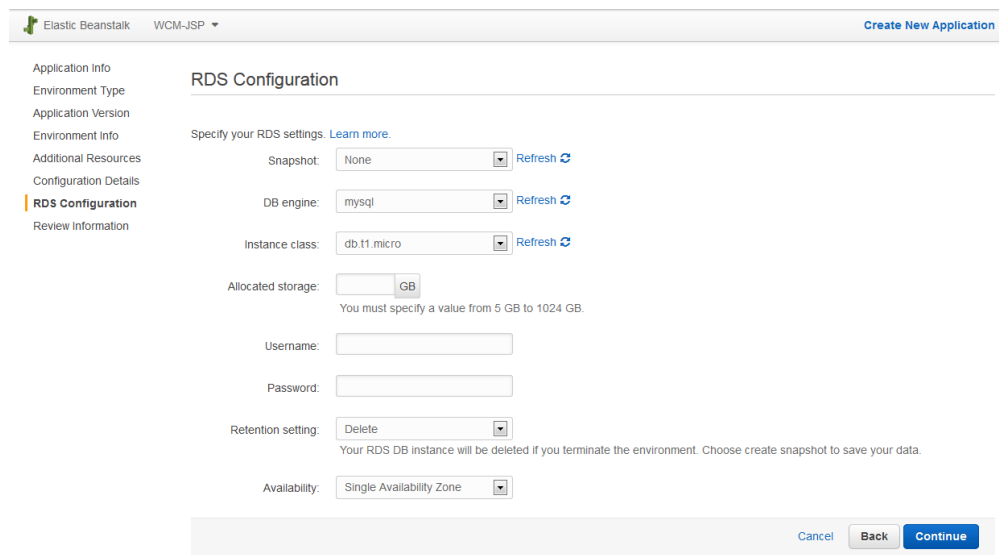
非推奨

Web サイトコンテンツや他のデータも含め、すべてのデータベースサーバデータが、環境終了時に削除されます。一時的な検証のためのデプロイメントでは良いかもしれませんが、本番のデプロイメントでは、この設定は避けるべきです。

- Create snapshot（スナップショットを作成）

推奨

Web サイトコンテンツや他のデータも含め、すべてのデータベースサーバデータのスナップショット（バックアップ）が、環境終了時に作成されます。永続的な検証や開発のデプロイメント、および本番のデプロイメントでは、常にこの設定を選択すべきです。



Elastic Beanstalk WCM-JSP Create New Application

Application Info Environment Type Application Version Environment Info Additional Resources Configuration Details **RDS Configuration** Review Information

RDS Configuration

Specify your RDS settings. [Learn more.](#)

Snapshot: None Refresh

DB engine: mysql Refresh

Instance class: db.t1.micro Refresh

Allocated storage: 5 GB
You must specify a value from 5 GB to 1024 GB.

Username:

Password:

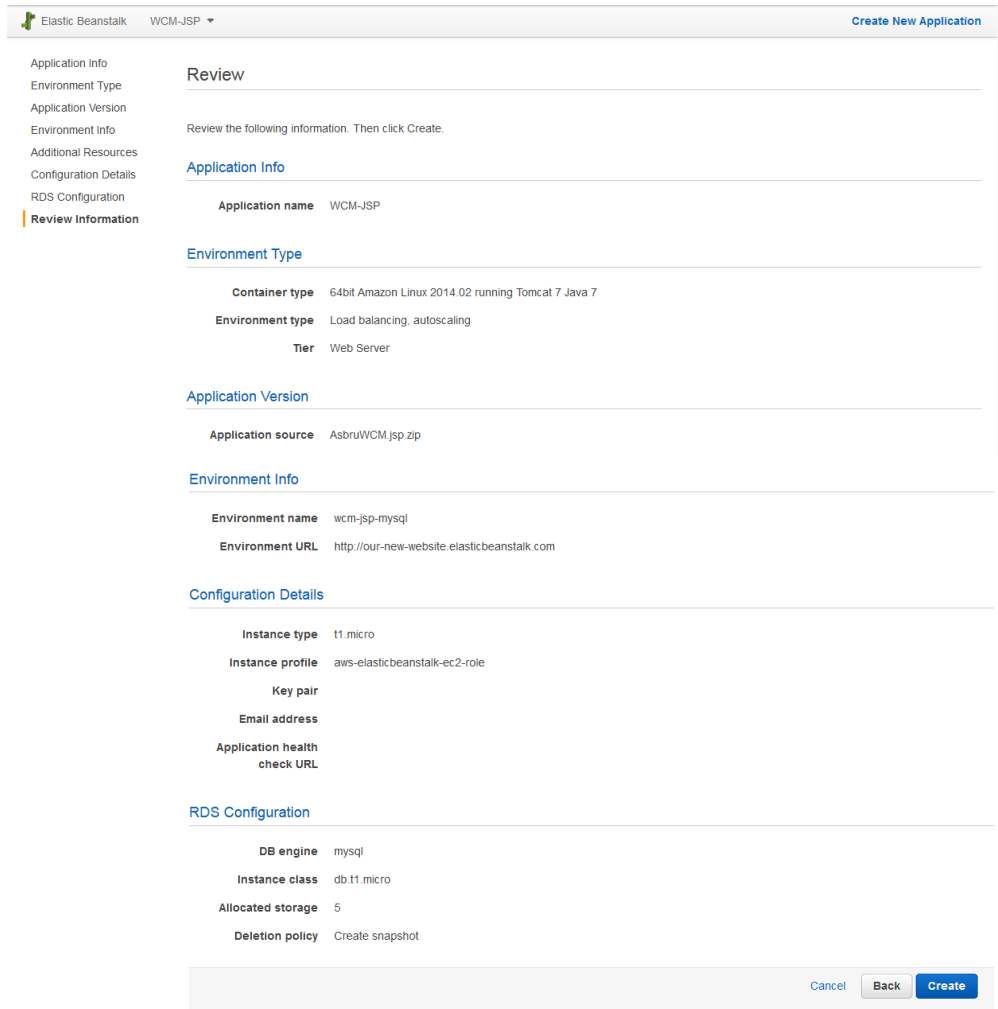
Retention setting: Delete
Your RDS DB instance will be deleted if you terminate the environment. Choose create snapshot to save your data.

Availability: Single Availability Zone

Cancel Back Continue

2.4.8 デプロイメント

最後に、デプロイメント設定を確認して実行します。



Elastic Beanstalk WCM-JSP [Create New Application](#)

Application Info
Environment Type
Application Version
Environment Info
Additional Resources
Configuration Details
RDS Configuration
Review Information

Review

Review the following information. Then click Create.

Application Info

Application name WCM-JSP

Environment Type

Container type 64bit Amazon Linux 2014.02 running Tomcat 7 Java 7
Environment type Load balancing, autoscaling
Tier Web Server

Application Version

Application source AsbruWCM.jsp.zip

Environment Info

Environment name wcm-jsp-mysql
Environment URL http://our-new-website.elasticbeanstalk.com

Configuration Details

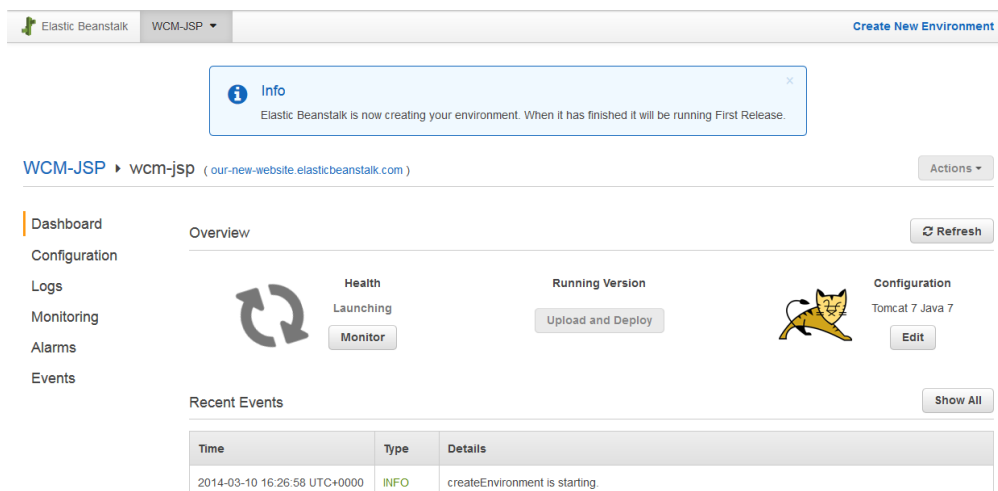
Instance type t1.micro
Instance profile aws-elasticbeanstalk-ec2-role
Key pair
Email address
Application health check URL

RDS Configuration

DB engine mysql
Instance class db.t1.micro
Allocated storage 5
Deletion policy Create snapshot

[Cancel](#) [Back](#) [Create](#)

HeartCore Web コンテンツ管理システムの Web サイト環境のデプロイメントが開始されます。セットアップによっては、数分掛かる場合もあります。



Elastic Beanstalk WCM-JSP [Create New Environment](#)

Info
Elastic Beanstalk is now creating your environment. When it has finished it will be running First Release.

WCM-JSP ▶ wcm-jsp (our-new-website.elasticbeanstalk.com) [Actions ▾](#)

Dashboard
Configuration
Logs
Monitoring
Alarms
Events

Overview

[Refresh](#)

Health
Launching
[Monitor](#)

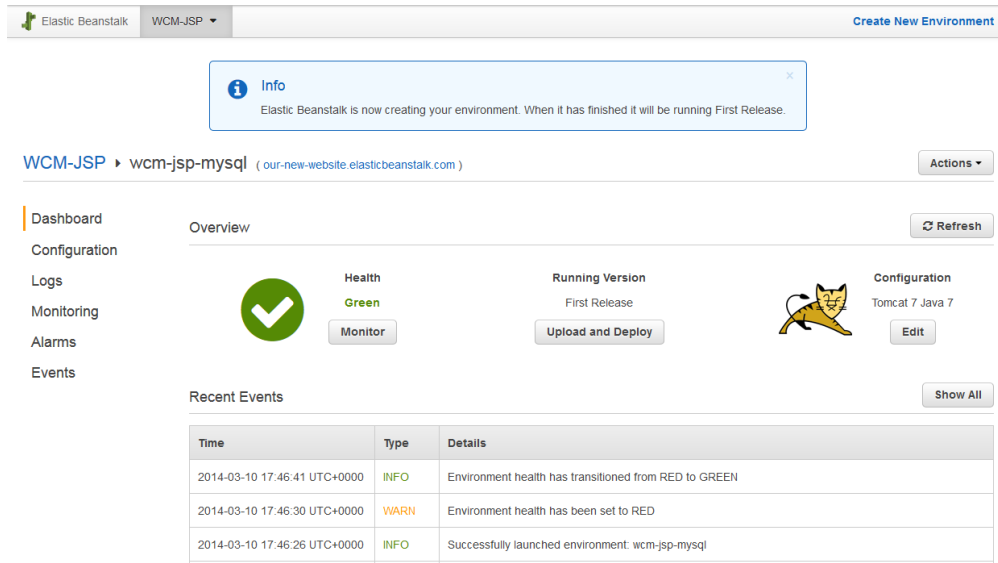
Running Version
[Upload and Deploy](#)

Configuration
Tomcat 7 Java 7
[Edit](#)

Recent Events [Show All](#)

Time	Type	Details
2014-03-10 16:26:58 UTC+0000	INFO	createEnvironment is starting.

デプロイメントが完了すると、Web サーバとデータベースサーバが起動します。



WCM-JSP ▶ wcm-jsp-mysql (our-new-website.elasticbeanstalk.com)

Health: **Green** (Monitor)

Running Version: First Release (Upload and Deploy)

Configuration: Tomcat 7 Java 7 (Edit)

Time	Type	Details
2014-03-10 17:46:41 UTC+0000	INFO	Environment health has transitioned from RED to GREEN
2014-03-10 17:46:30 UTC+0000	WARN	Environment health has been set to RED
2014-03-10 17:46:26 UTC+0000	INFO	Successfully launched environment: wcm-jsp-mysql

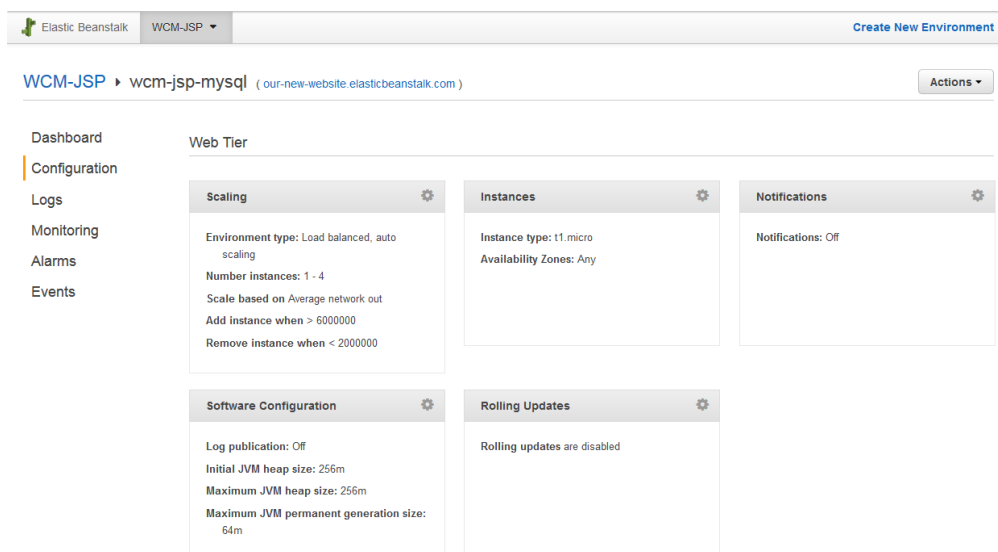
ご自身で指定した環境 URL (例: <http://our-new-website.elasticbeanstalk.com/>) へアクセスすると、HeartCore Web コンテンツ管理のクイックスタート設定が表示されます。

重要：デプロイした Web サーバには、永続的なファイルストレージや共有ファイルストレージは存在しません。複数の Web サーバをデプロイしている場合、アップロードしたイメージやファイルは、いずれか 1 つの Web サーバでのみ使用可能な状態です。Web サーバの再起動や停止を行うと、すべてのイメージやファイルを失う可能性があります。従って、必ず、クラウドストレージサービスを使用するよう、デプロイ環境もしくは HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定を行ってください。

2.4.9 クラウドストレージ

デプロイした環境用に必要なクラウドストレージサービスの設定を行うことを、強く推奨します。

「Configuration (設定)」を選択します。



WCM-JSP ▶ wcm-jsp-mysql (our-new-website.elasticbeanstalk.com)

Web Tier

- Scaling**: Environment type: Load balanced, auto scaling; Number instances: 1 - 4; Scale based on Average network out; Add instance when > 6000000; Remove instance when < 2000000
- Instances**: Instance type: t1.micro; Availability Zones: Any
- Notifications**: Notifications: Off
- Software Configuration**: Log publication: Off; Initial JVM heap size: 256m; Maximum JVM heap size: 256m; Maximum JVM permanent generation size: 64m
- Rolling Updates**: Rolling updates are disabled

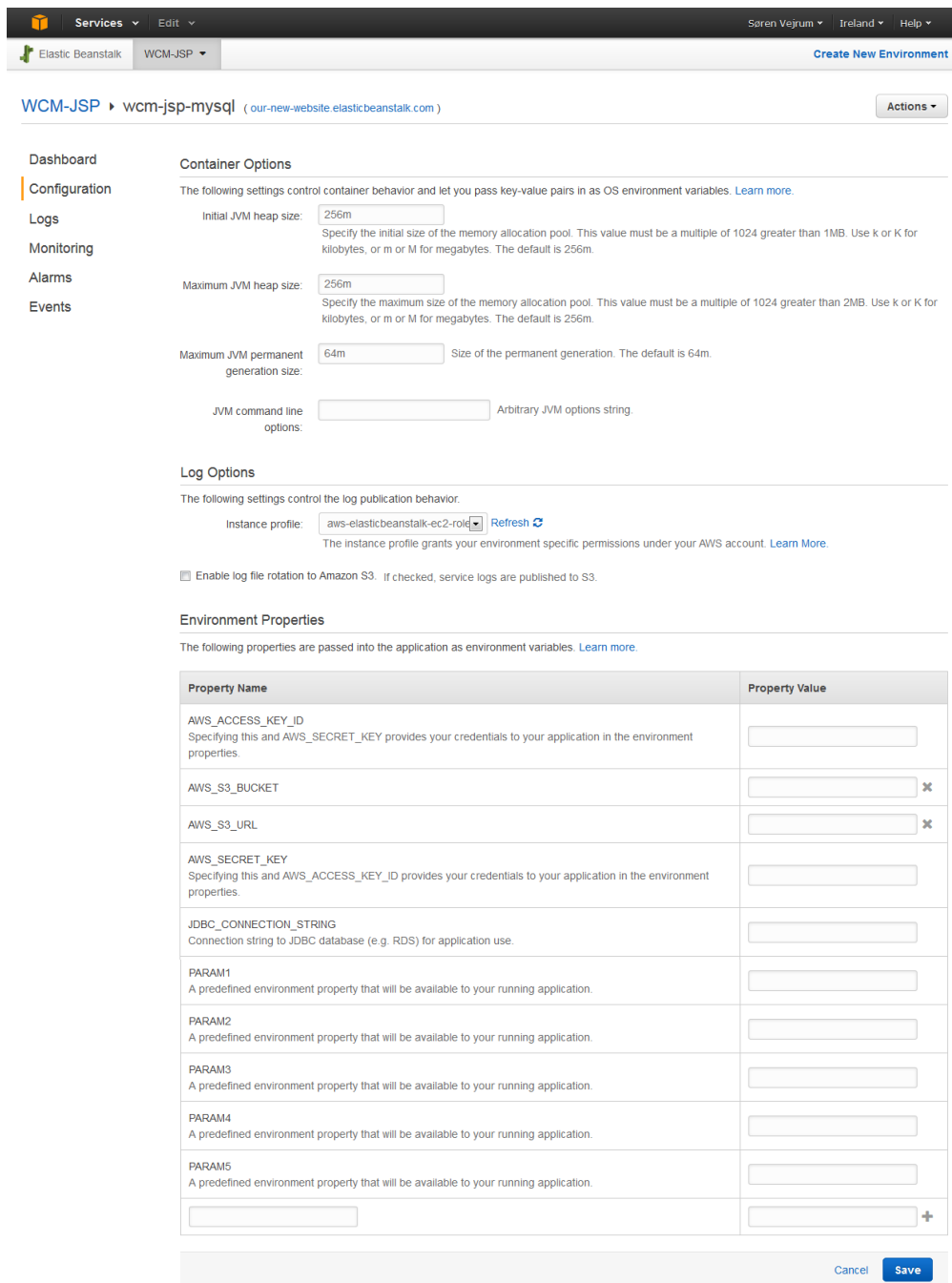
「Software Configuration (ソフトウェア設定)」の歯車マークをクリックして、ご自身の AWS S3 クラウドストレージサービス情報を入力してください。

AWS S3 クラウドストレージ登録についての詳細 (アクセスキーの取得、バケットの作成、バケットの Web アドレス URL 取得) は、AWS のドキュメンテーションをご参照ください。

- **AWS_ACCESS_KEY_ID**
クラウドストレージへイメージやファイルを保管するための認証ユーザ名/キー
例: 0JB41D9NP3YQFZ8G05G6
- **AWS_S3_BUCKET**
クラウドストレージ上で、イメージやファイルの保管場所となるフォルダ/バケット
例: our-new-website
- **AWS_S3_URL**
クラウドストレージ上に保管されたイメージやファイルへアクセスするための外部 Web アドレス
例: <http://our-new-website.s3-website-eu-west-1.amazonaws.com/>
- **AWS_SECRET_KEY**
クラウドストレージへイメージやファイルを保管するための認証パスワード/シークレット
例: zhCufvD8e4LasXA6zfuaEpQGyoNpx10EXCVWaiob

尚、HeartCore Web コンテンツ管理システムで使用するデータベース接続文字列に関して、特別な要件がある場合や、データベースサーバなしで環境をデプロイして、代わりに既存のデータベースサーバを使用したい場合、独自のデータベース接続文字列を設定することも可能です。

- **JDBC_CONNECTION_STRING**
HeartCore Web コンテンツ管理システムで設定される形式のデータベース接続文字列です。通常は、データベースサーバのタイプを示す文字が先頭にある、標準的な Java/JDBC データベース接続文字列です。
データベース接続文字列が設定されていない場合は、HeartCore Web コンテンツ管理システムによって自動で生成されます。

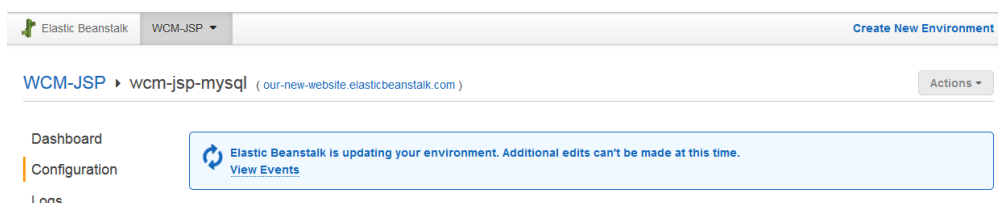


The screenshot shows the AWS Elastic Beanstalk console configuration page for an environment named 'WCM-JSP'. The page is divided into several sections:

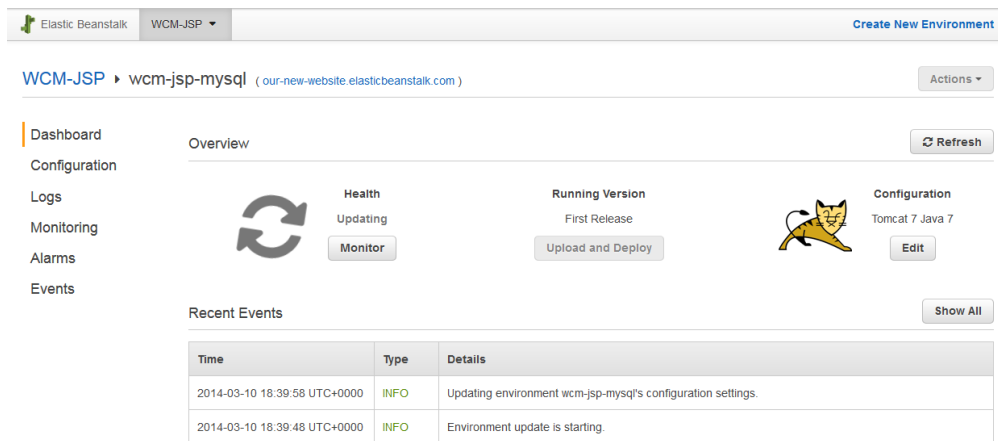
- Container Options:** This section allows configuring container behavior. It includes input fields for 'Initial JVM heap size' (256m), 'Maximum JVM heap size' (256m), and 'Maximum JVM permanent generation size' (64m). There is also a field for 'JVM command line options'.
- Log Options:** This section controls log publication behavior. It shows the 'Instance profile' set to 'aws-elasticbeanstalk-ec2-rol...' and a checkbox for 'Enable log file rotation to Amazon S3'.
- Environment Properties:** This section lists properties passed to the application as environment variables. It includes a table with columns for 'Property Name' and 'Property Value'. Properties listed include AWS_ACCESS_KEY_ID, AWS_SECRET_KEY, AWS_S3_BUCKET, AWS_S3_URL, JDBC_CONNECTION_STRING, and several PARAM (PARAM1 to PARAM5) properties.

At the bottom of the configuration page, there are 'Cancel' and 'Save' buttons.

「Save（保存）」を選択すると、設定が更新され、Web サーバの再起動が行われます。数分掛かる場合もあります。



This screenshot shows the same console page as above, but with a blue notification banner at the top of the configuration area. The banner contains a refresh icon and the text: 'Elastic Beanstalk is updating your environment. Additional edits can't be made at this time. View Events'.



Elastic Beanstalk WCM-JSP [Create New Environment](#)

WCM-JSP > wcm-jsp-mysql (our-new-website.elasticbeanstalk.com) [Actions](#)

Dashboard Overview [Refresh](#)

Configuration

Logs

Monitoring

Alarms

Events

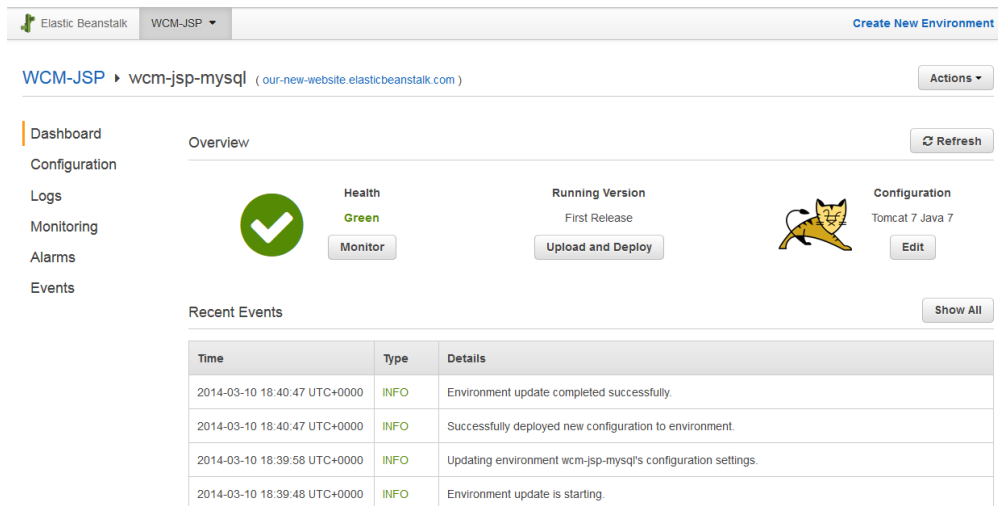
Health: Updating [Monitor](#)

Running Version: First Release [Upload and Deploy](#)

Configuration: Tomcat 7 Java 7 [Edit](#)

Recent Events [Show All](#)

Time	Type	Details
2014-03-10 18:39:58 UTC+0000	INFO	Updating environment wcm-jsp-mysql's configuration settings.
2014-03-10 18:39:48 UTC+0000	INFO	Environment update is starting.



Elastic Beanstalk WCM-JSP [Create New Environment](#)

WCM-JSP > wcm-jsp-mysql (our-new-website.elasticbeanstalk.com) [Actions](#)

Dashboard Overview [Refresh](#)

Configuration

Logs

Monitoring

Alarms

Events

Health: Green [Monitor](#)

Running Version: First Release [Upload and Deploy](#)

Configuration: Tomcat 7 Java 7 [Edit](#)

Recent Events [Show All](#)

Time	Type	Details
2014-03-10 18:40:47 UTC+0000	INFO	Environment update completed successfully.
2014-03-10 18:40:47 UTC+0000	INFO	Successfully deployed new configuration to environment.
2014-03-10 18:39:58 UTC+0000	INFO	Updating environment wcm-jsp-mysql's configuration settings.
2014-03-10 18:39:48 UTC+0000	INFO	Environment update is starting.

2.4.10 クイックスタート設定

環境の更新完了後、ご自身で指定した環境 URL（例：http://our-new-website.elasticbeanstalk.com/webadmin/）へアクセスすると、HeartCore Web コンテンツ管理のクイックスタート設定が表示されます。

HeartCore Web コンテンツ管理システムのクイックスタート設定では、表示されたデータベース接続文字列をそのまま保存してください。



2.4.11 接続タイムアウト

AWS Elastic Beanstalk Load Balancer サービスは、60 秒の接続タイムアウトを設けており、現在のところ、残念ながら変更は不可能です。従って、データベースの初期化やインポートといった操作も含め、Web コンテンツ管理システムへのアクセスが 60 秒以上掛かる場合は、AWS Elastic Beanstalk Load Balancer サービスによってタイムアウトとなってしまいます。

データベースの初期化やインポートが 60 秒以上掛かると接続タイムアウトとなってしまいますが、バックグラウンドでは処理が継続しています。Web コンテンツ管理システムのデータベース設定画面に再びアクセスすると、初期化とインポートの処理が継続していると表示されるはずです。処理が完了すれば、Web コンテンツ管理システムを使用できるようになります。

また代わりに、Web サーバインスタンスへの直接アクセスを許可するよう、AWS クラウドサービスを設定することも可能です。詳しくは、AWS のドキュメンテーションをご参照ください。

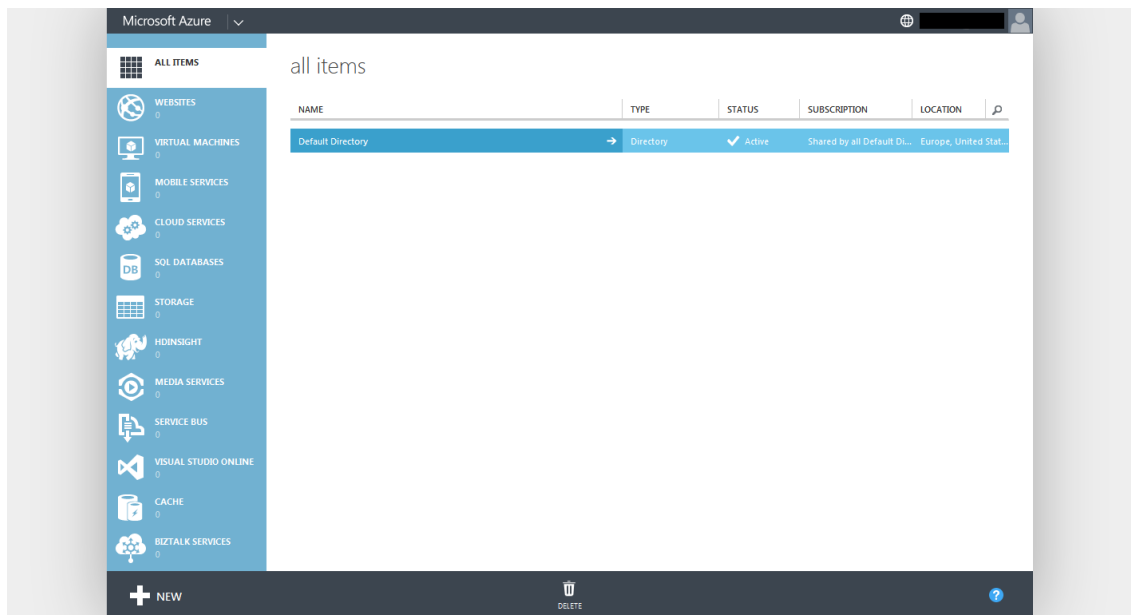
2.5 Microsoft Azure クラウドデプロイメント

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、クラウドホスティングサービスの Microsoft Azure へ容易にデプロイすることができます。使用するクラウドウェブサイトとデータベース、ストレージを作成して、HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアパッケージをアップロードするだけです。

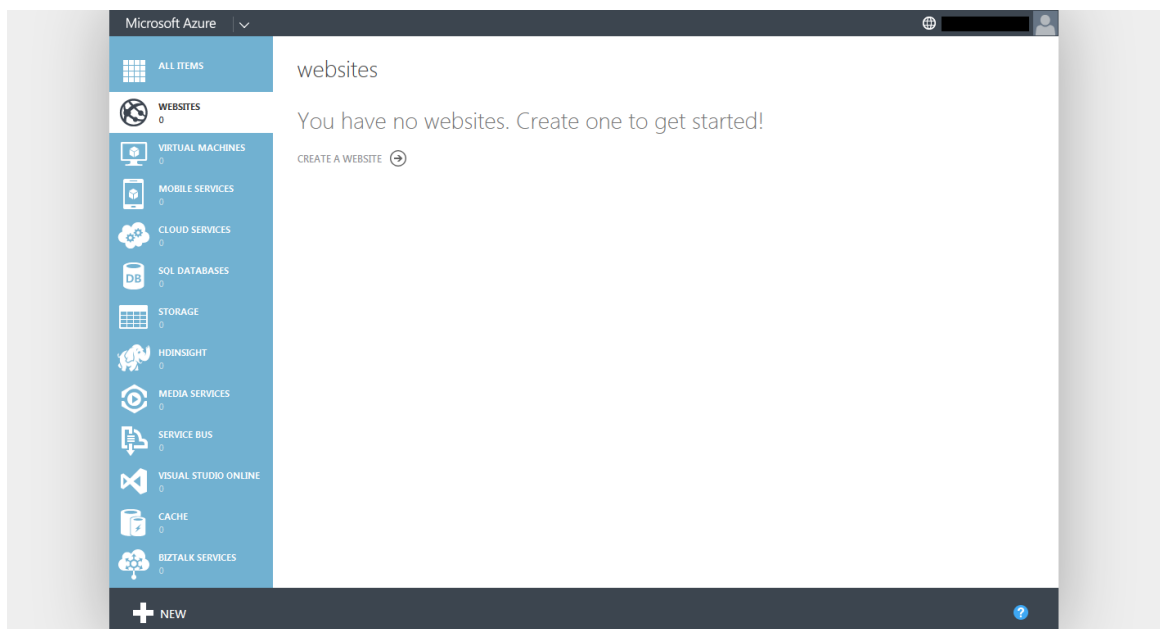
2.5.1 Microsoft Azure

Microsoft Azure クラウドデプロイメントを使用するには、<http://azure.microsoft.com/> へアクセスしてアカウントを登録し、Microsoft Azure 管理ポータルへ進みます。高度な要件向けに、多くの様々な Azure クラウドサービスが用意されています。HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアは、Azure Website サービスを使用して簡単にデプロイすることが可能です。

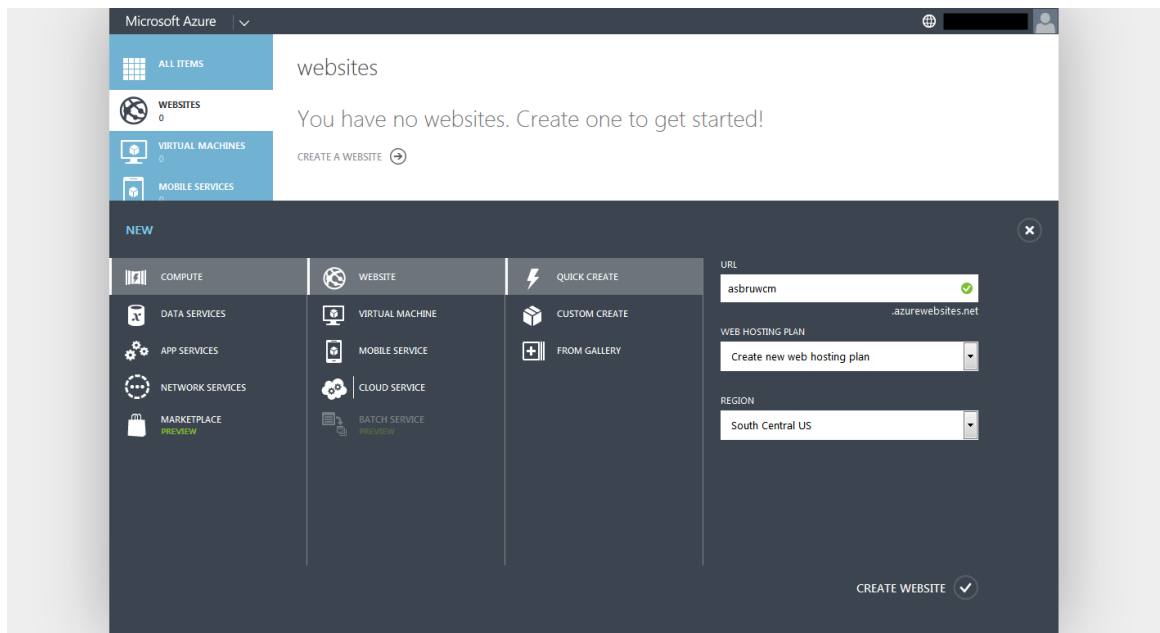
Azure の各種サービスやユーザインターフェース、オプションは変更になる可能性がありますのでご注意ください。詳しくは、一般的な Azure 文献をご参照ください。



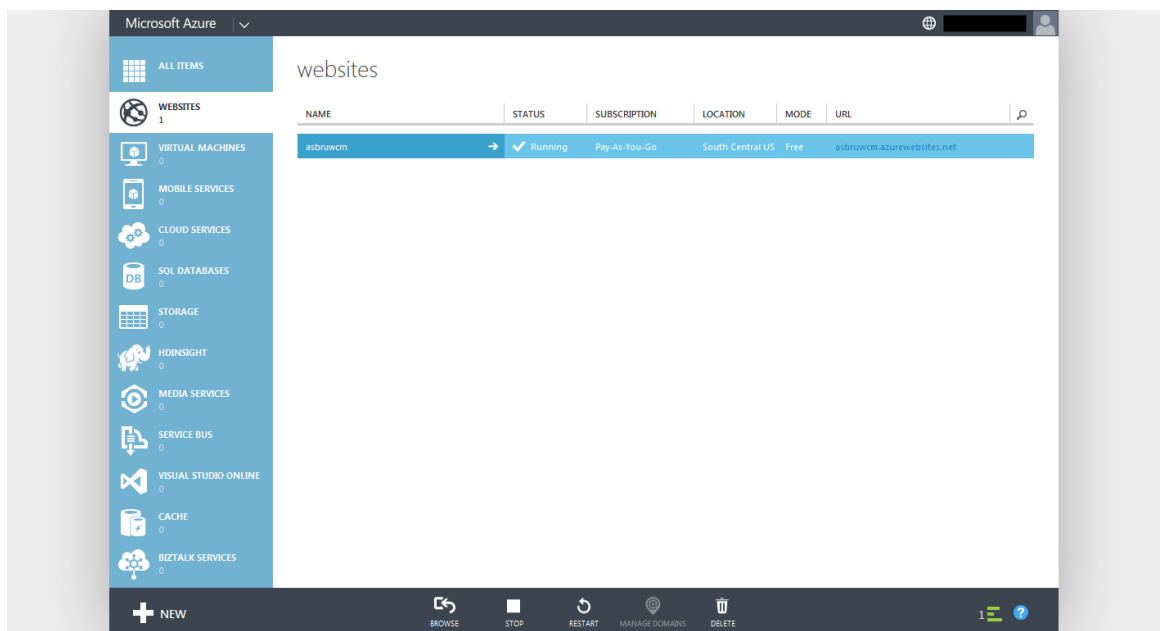
HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアをデプロイするには、「Websites（ウェブサイト）」を選択した後、「Create A Website（ウェブサイトを作成）」を選択します。

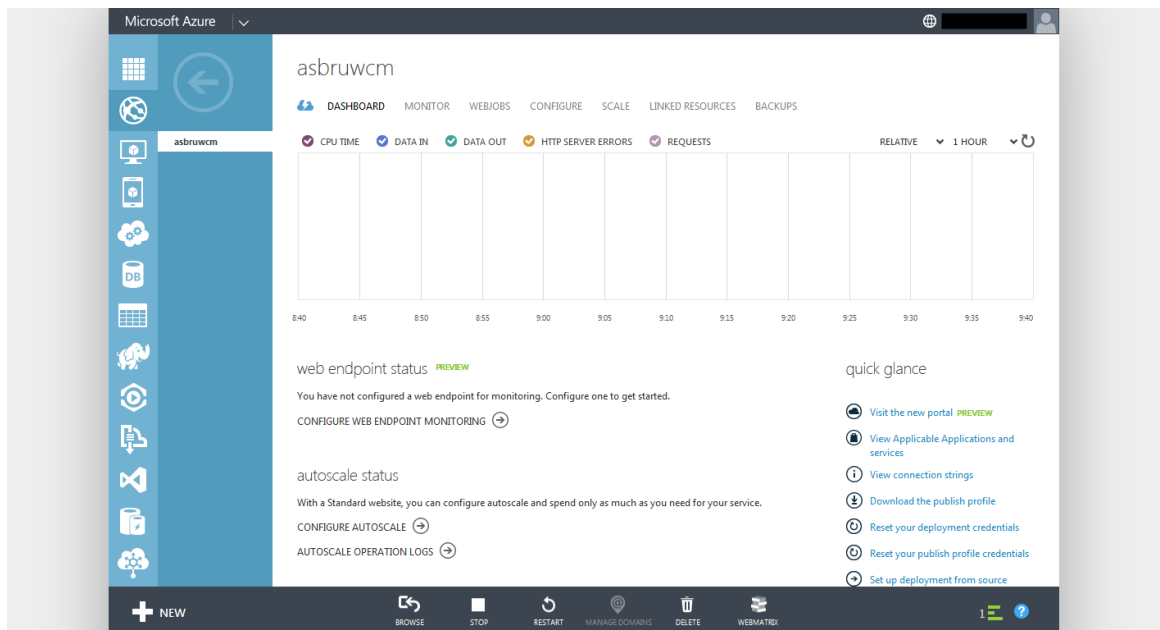


ご自身の Web サイトの URL を入力します。（これは、初期デプロイメント URL / 初期管理 URL です。その他の URL は後で追加可能です。）



数分で新しい Web サイトの作成が完了し、起動状態となります。

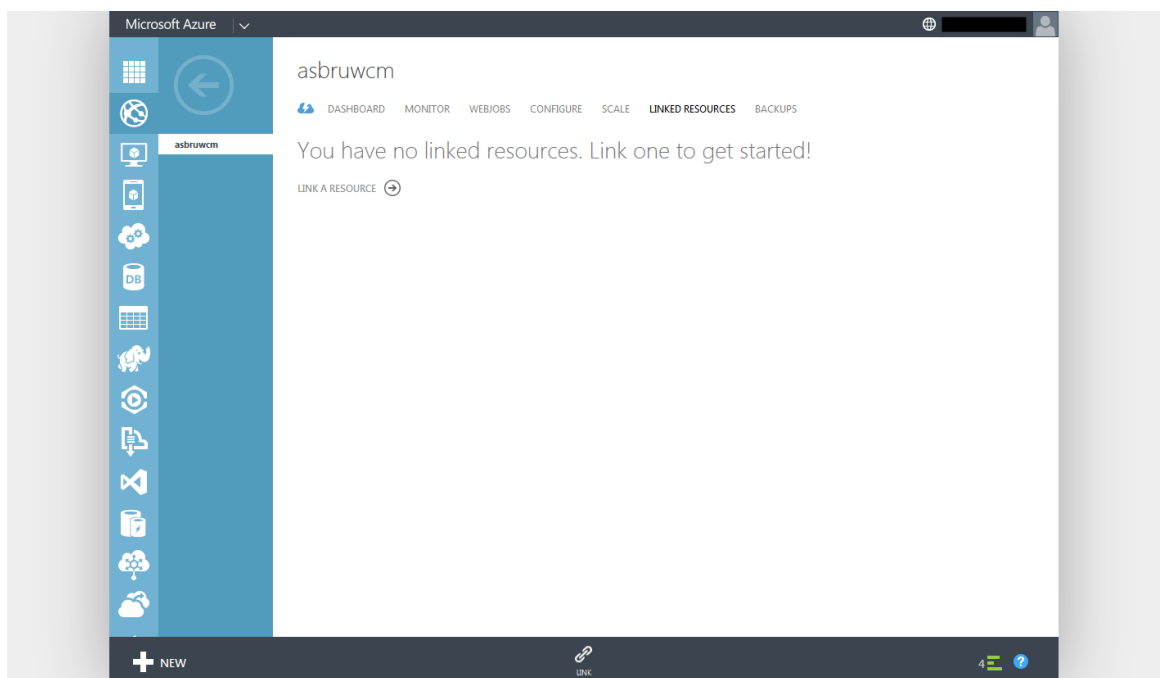




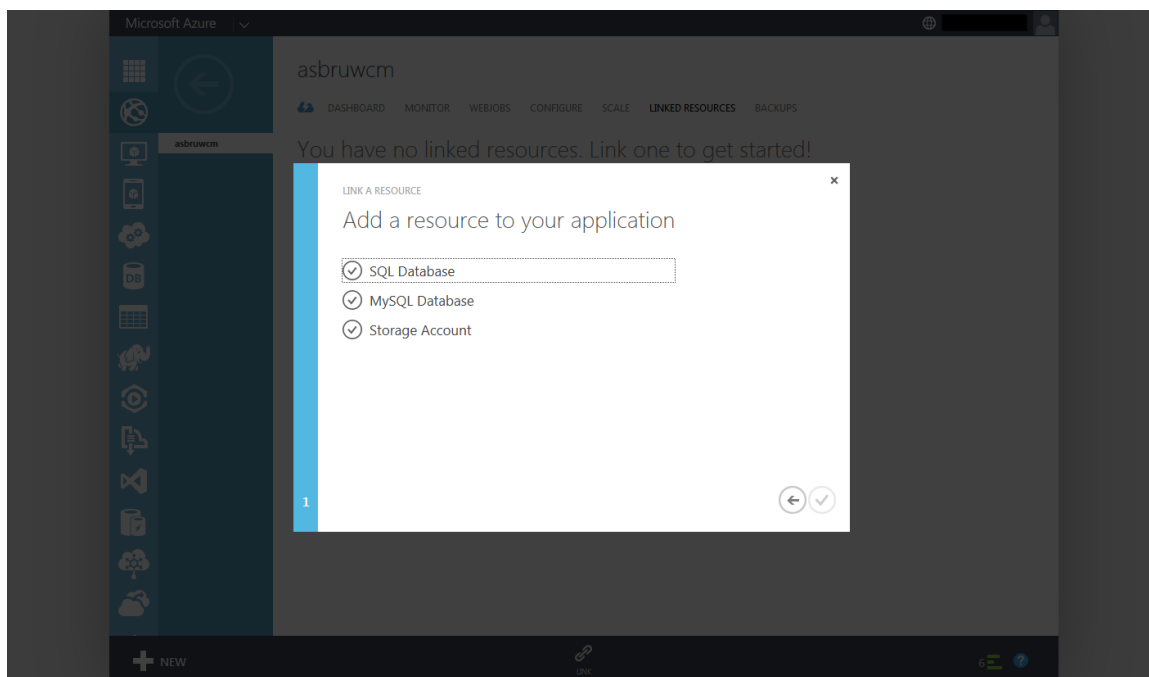
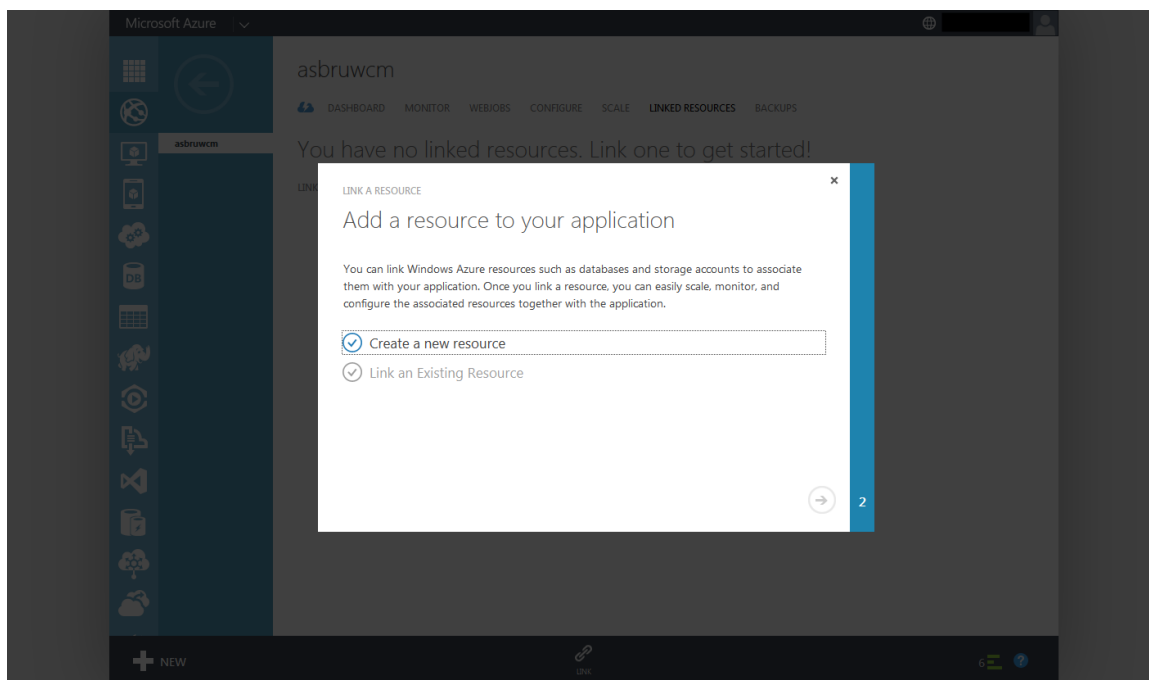
2.5.2 データベース

HeartCore Web コンテンツ管理システムには、ウェブサイトのコンテンツや他のデータを保管するためのデータベースサーバーインスタンスが必要です。

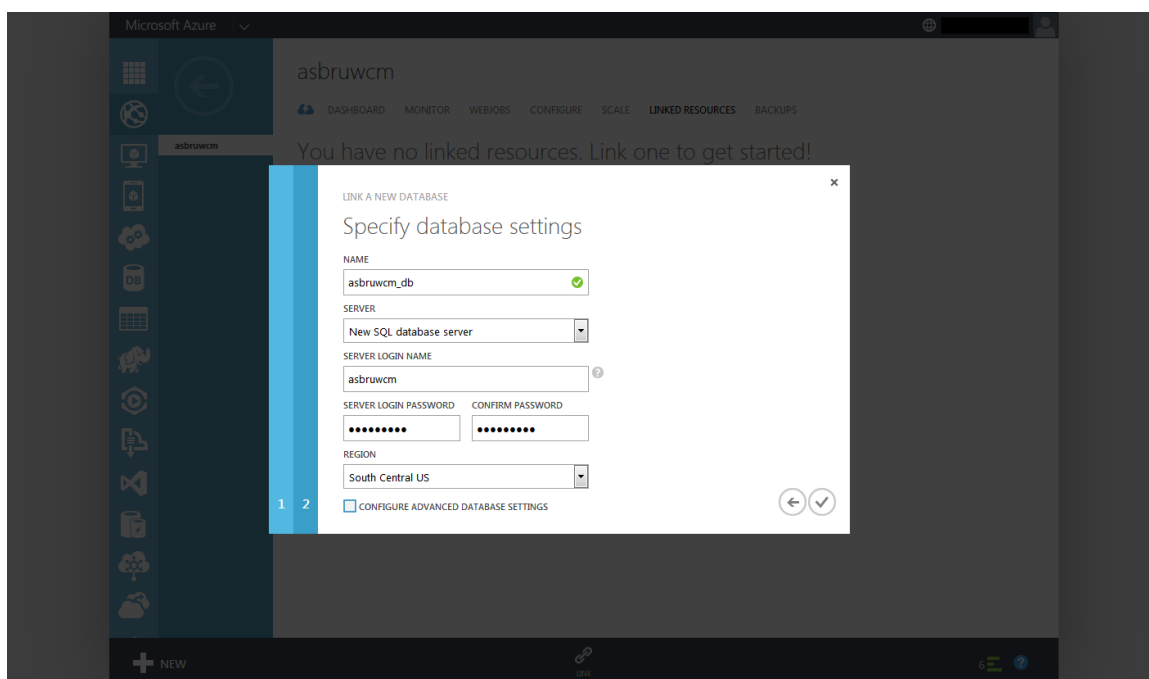
「Linked Resources (接続リソース)」より、データベースを作成して Azure ウェブサイトに関連付けを行います。



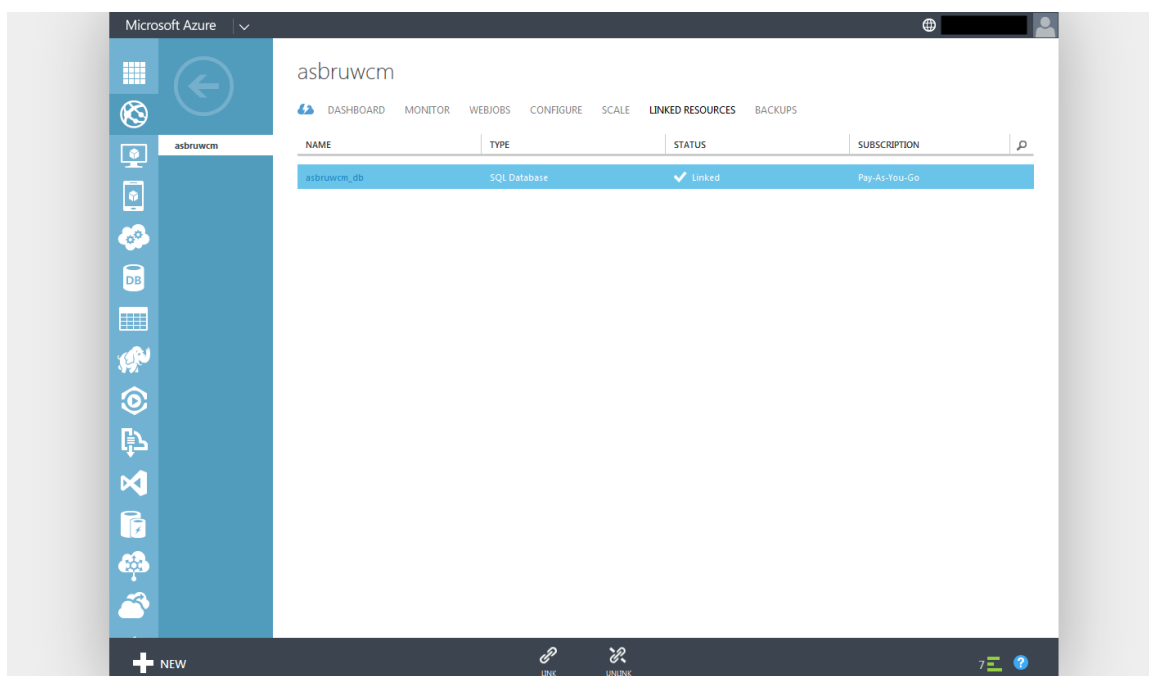
「Link A Resource（リソースに接続）」を選択し、次に「Create A New Resource（新規リソースを作成）」を選択し、そして「SQL Database」を選択して、Azure Web サイトおよび HeartCore Web コンテンツ管理システム用にデータベースを作成します。



データベースの名前とログイン名、ログインパスワードを入力します。



数分でデータベースの作成が完了し、起動状態となります。

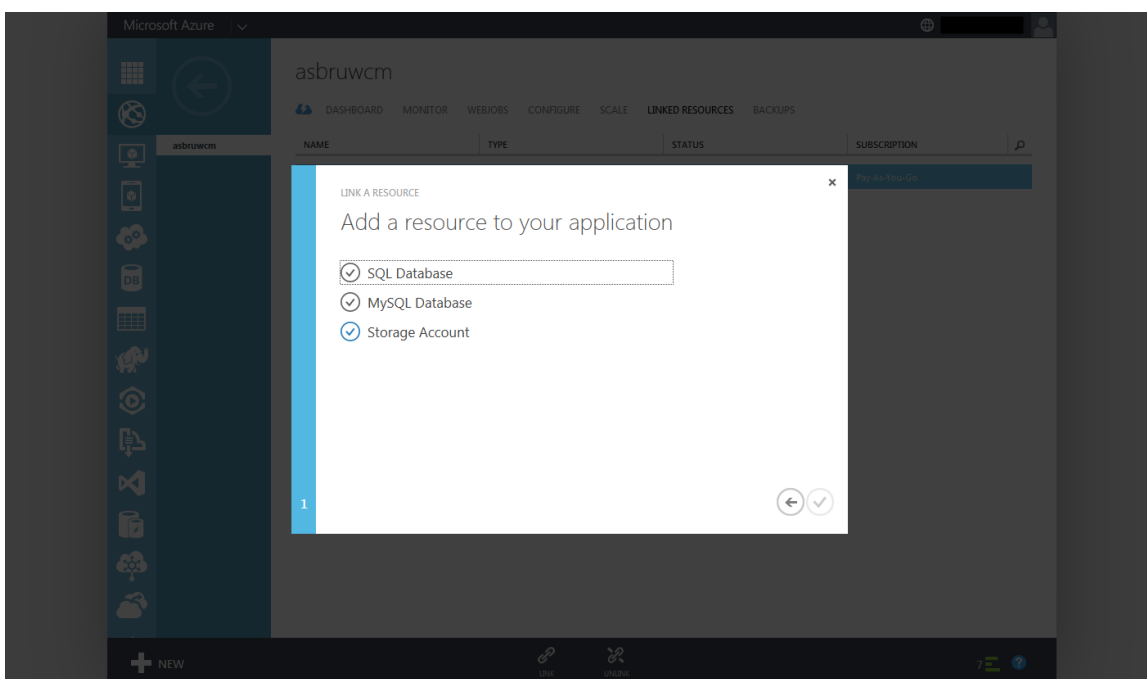
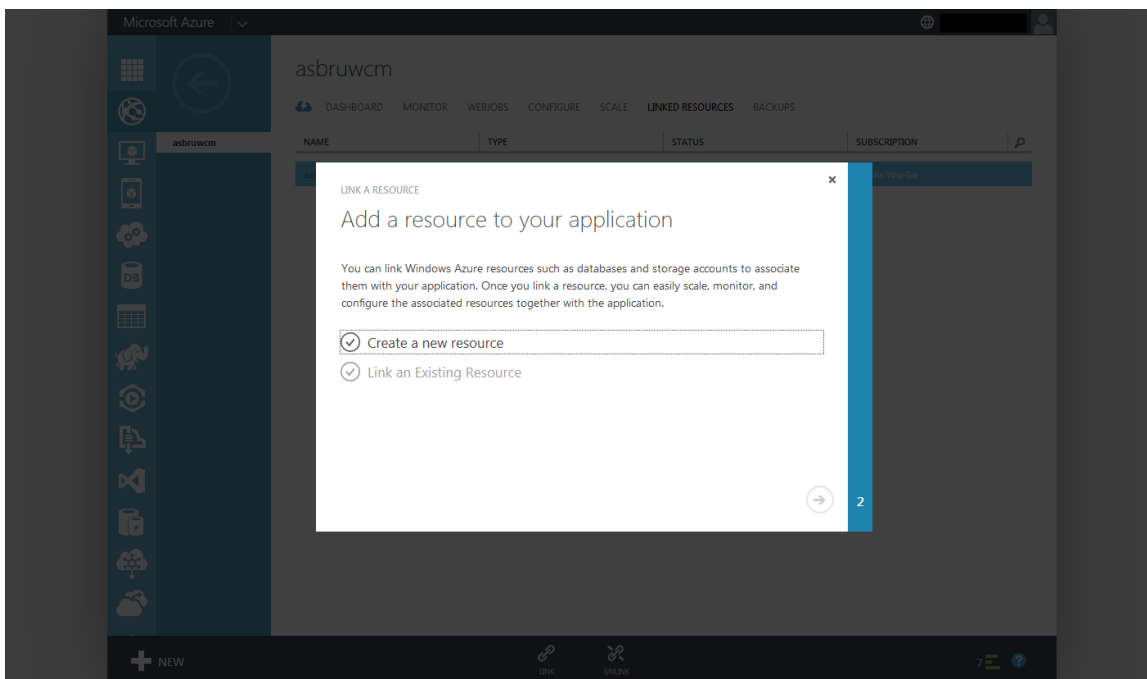


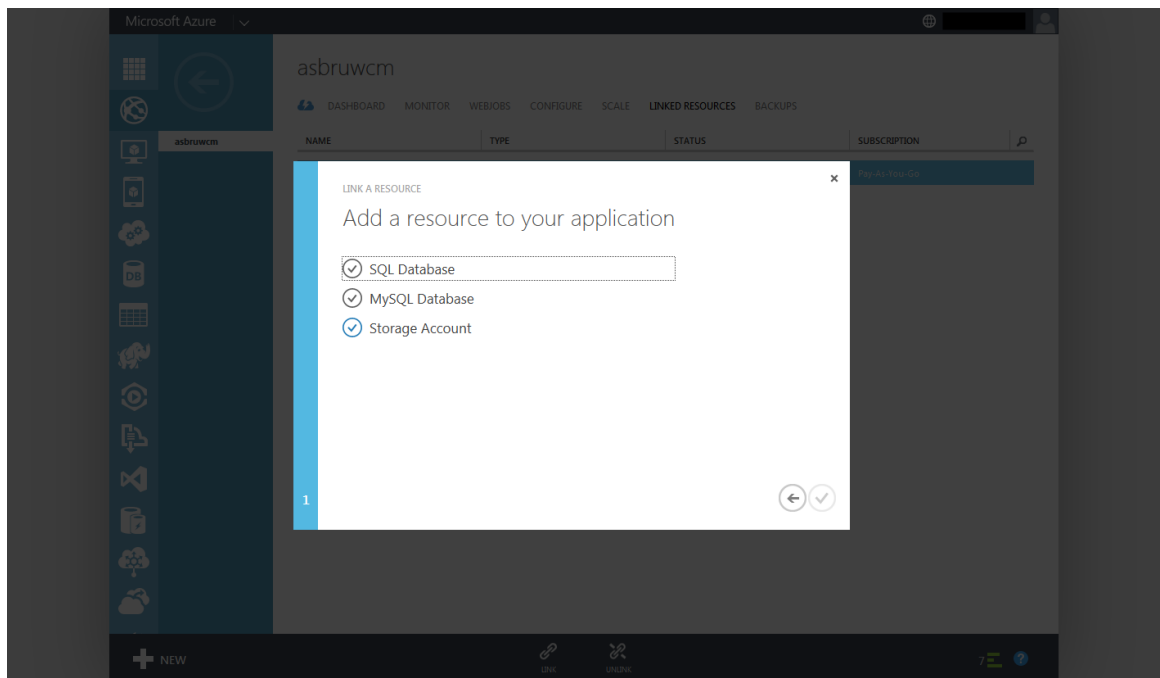
2.5.3 クラウドストレージ

HeartCore Web コンテンツ管理システムには、ウェブサイトのイメージや他のファイルを保管するためのストレージも必要です。

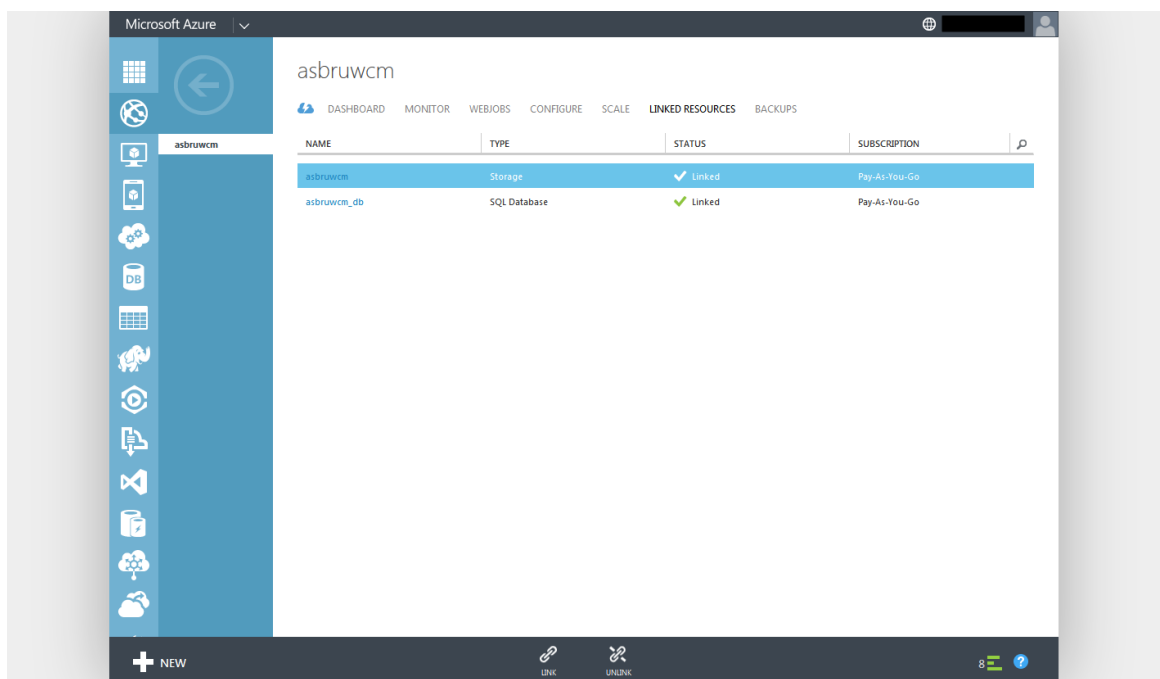
「Linked Resources (接続リソース)」より、ストレージを作成して Azure ウェブサイトに関連付けを行います。

「Link (リンク)」を選択し、次に「Create A New Resource (新規リソースを作成)」を選択し、そして「Storage Account (ストレージアカウント)」を選択して、Azure Web サイトおよび HeartCore Web コンテンツ管理システム用にストレージを作成します。

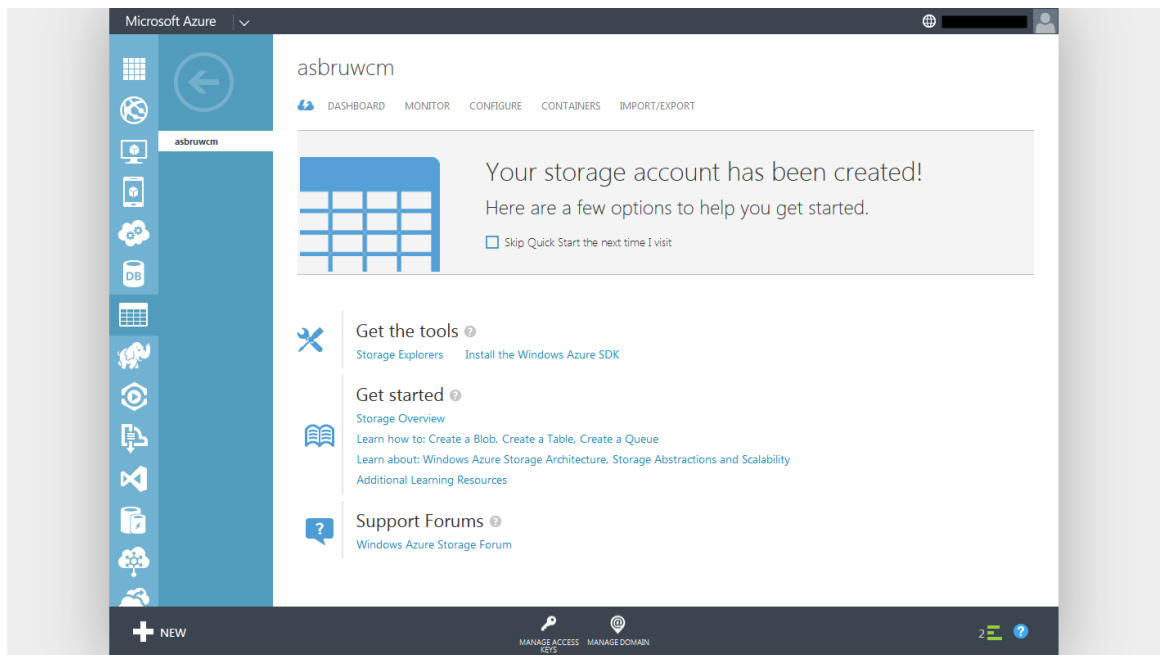




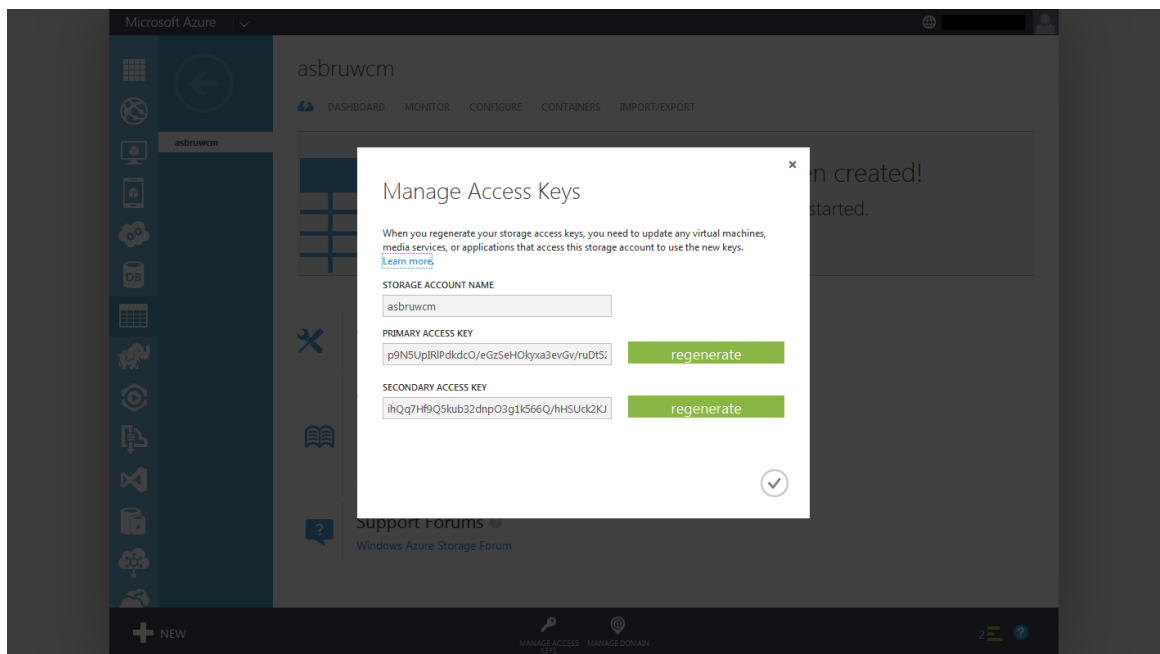
数分でストレージの作成が完了し、起動状態となります。



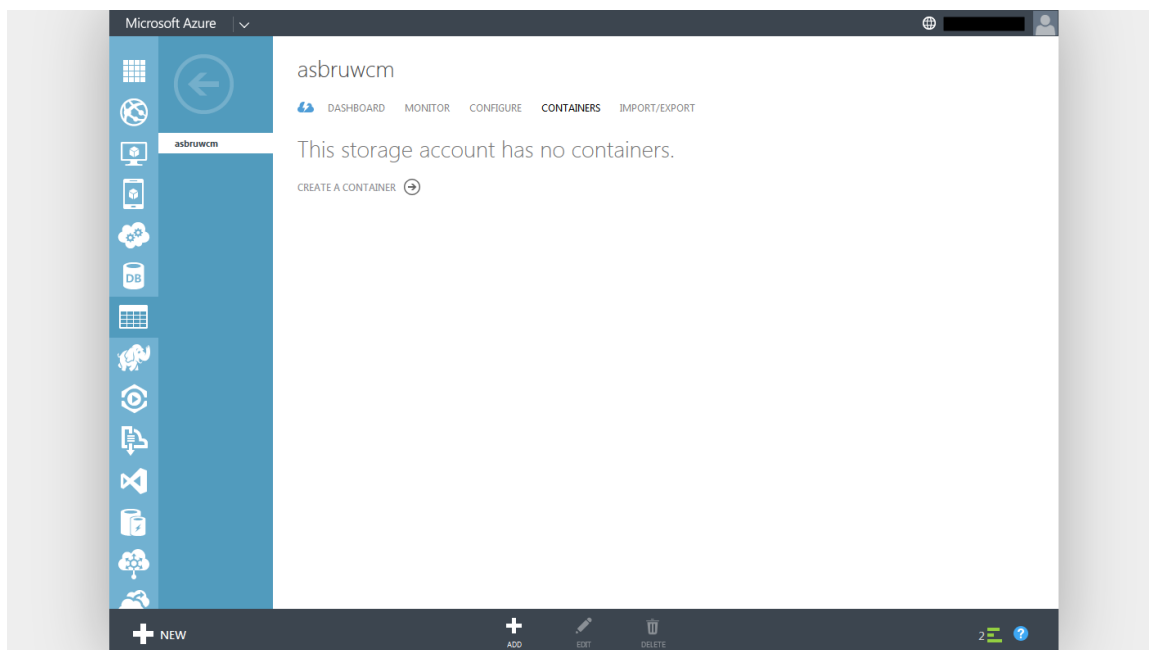
作成されたストレージ名を選択して、ストレージ管理へアクセスします。



「Manage Access Keys (アクセスキーの管理)」を選択し、表示されるストレージアカウント名と、アクセスキー（プライマリもしくはセカンダリ）を書き留めておいてください。HeartCore Web コンテンツ管理システムがストレージにアクセスする際に必要となります。

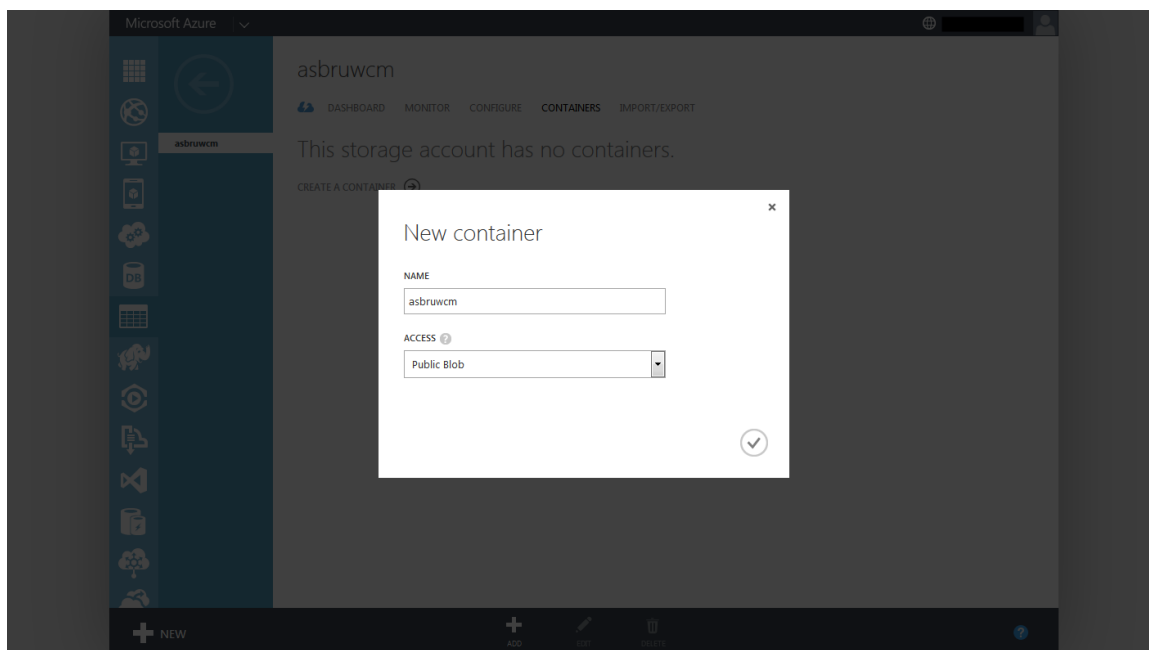


「Containers (コンテナ)」を選択し、次に「Create A Container (コンテナを作成)」を選択し、ストレージコンテナを作成します。ストレージコンテナは、HeartCore Web コンテンツ管理システムに必須です。

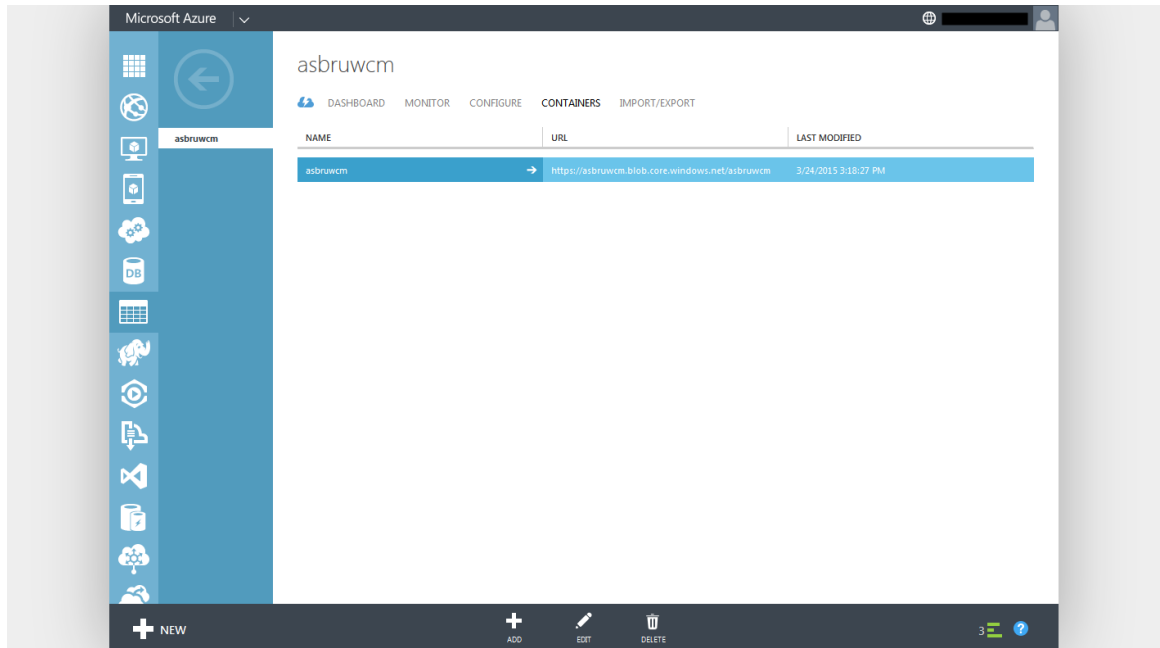


新規コンテナの「Access（アクセス）」は、通常「Public Blob」を選択します。

代わりに「Private」を選択しても構いませんが、その場合、プログラムスクリプトを使ったイメージやファイルの配信ができるよう、*HeartCore Web* コンテンツ管理システムを設定する必要があります。詳細は、設定ガイドをご参照ください。



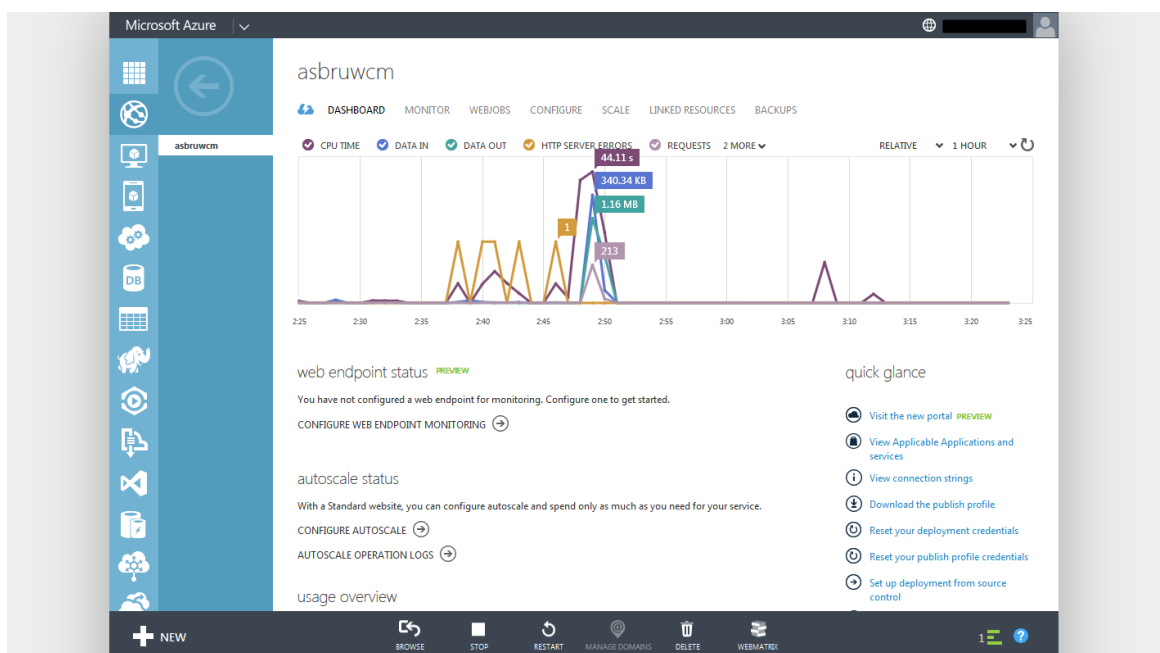
数秒でストレージコンテナの作成が完了し、使用可能な状態になります。

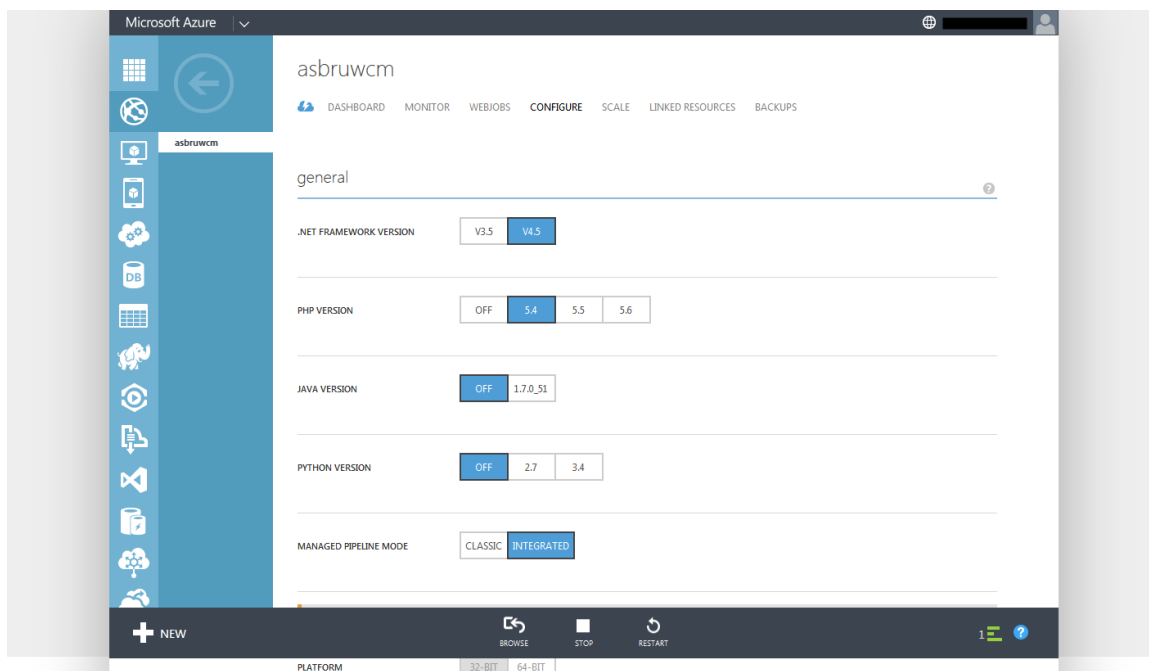


2.5.4 設定

Azure Web サイトは、デフォルトでは HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアの .NET および PHP バージョンを起動するよう設定されています。任意で、Java/JSP バージョンを起動するよう設定することも可能です。その他にも様々な設定オプションが用意されています。詳しくは、一般的な Azure 文献をご参照ください。

「Configure (設定)」を選択して、HeartCore Web コンテンツ管理システムに必要なアプリケーション設定や接続文字列設定を行います。

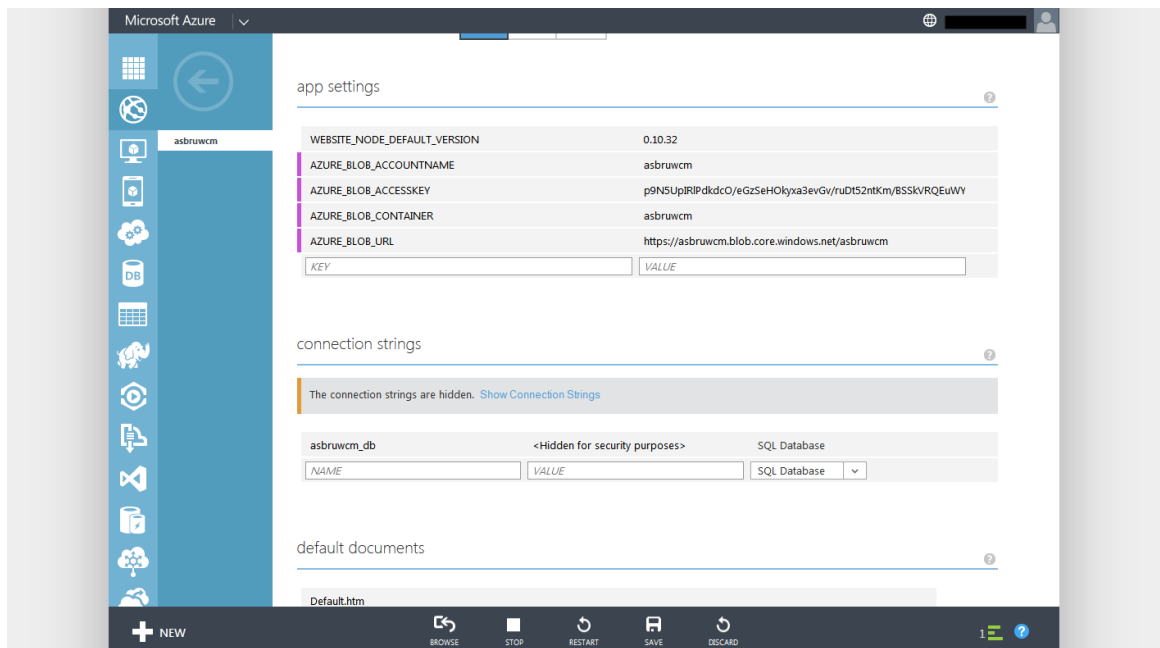




以下のキーと値を、「App Settings（アプリケーション設定）」セクションに入力して、「Select（保存）」を選択します。

- **AZURE_BLOB_ACCOUNTNAME**
先ほど設定した Azure ストレージアカウント名
- **AZUE_BLOB_ACCESSKEY**
先ほど書き留めておいた Azure ストレージアカウントのアクセスキー
- **AZURE_BLOB_CONTAINER**
先ほど設定した Azure ストレージコンテナ名
- **AZURE_BLOB_URL**
Azure ストレージコンテナ用の Web サイトアドレス URL
(<https://ACCOUNTNAME.blob.core.windows.net/CONTAINERNAME>)

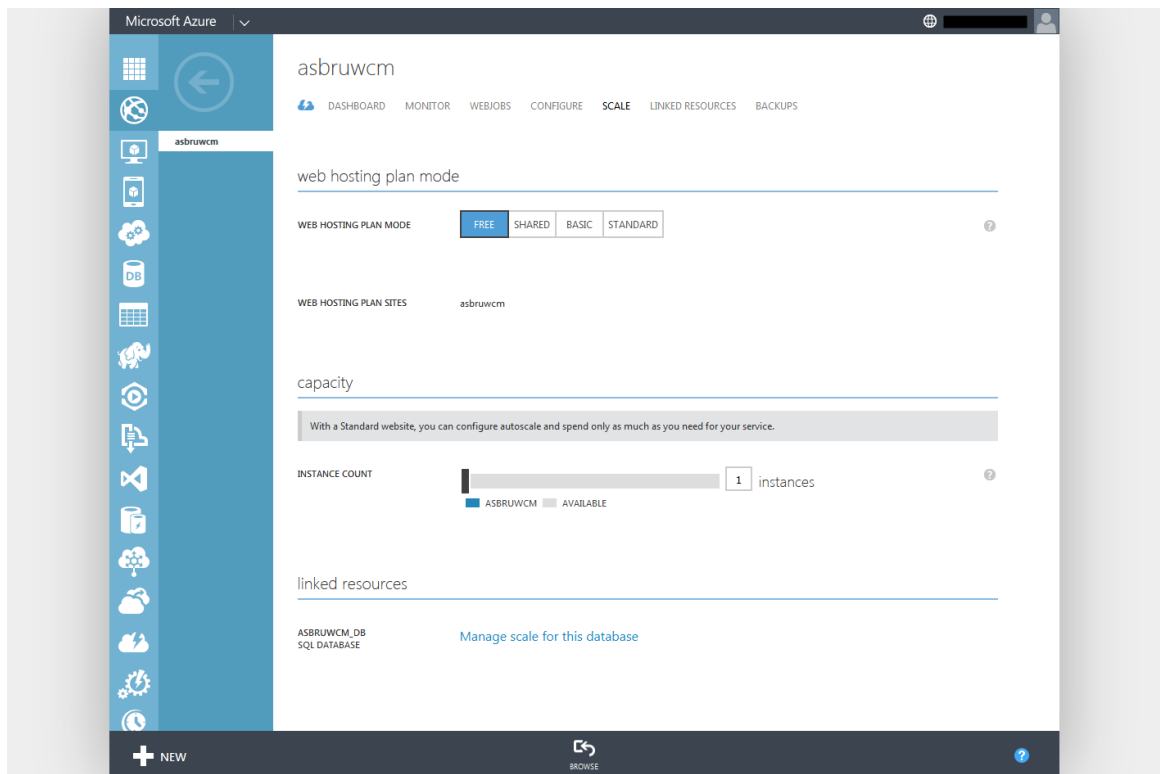
データベースは、「Connection Strings（接続文字列）」セクションにて、既に自動設定されています。



2.5.5 ハードウェア

デフォルトでは、Azure Web サイトは「Free」Web サイトとして作成されます。「Free」Web サイトは、他の Azure Web サイトとの共有サーバー上で動いており、機能やリソースも制限されます。アクセス数の少ない小規模 Web サイトでの使用、あるいは開発や検証目的での使用以外には適していません。本番 Web サイト用には、「Basic」か「Standard」にアップグレードする必要があります。専用リソースが使用可能となり、また、容量や性能、可用性などを向上するために Web サイトをスケールして複数インスタンスを起動できるようになります。

デフォルトでは、Azure データベースは「Basic」データベースとして作成されます。「Basic」データベースは、小規模で単一操作しか発生しないようなデータベースには向いていますが、それ以外には適していません。本番 Web サイト用には、「Standard」か「Premium」にアップグレードする必要があります。大規模データベースや、複数の同時トランザクションとユーザに対応しています。

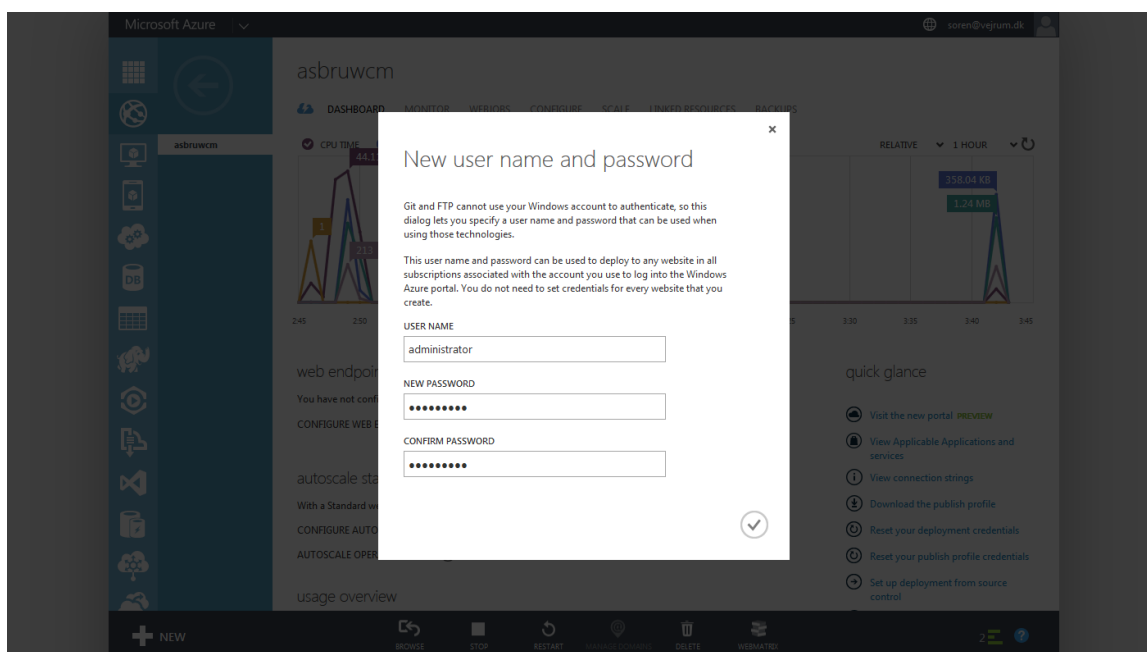
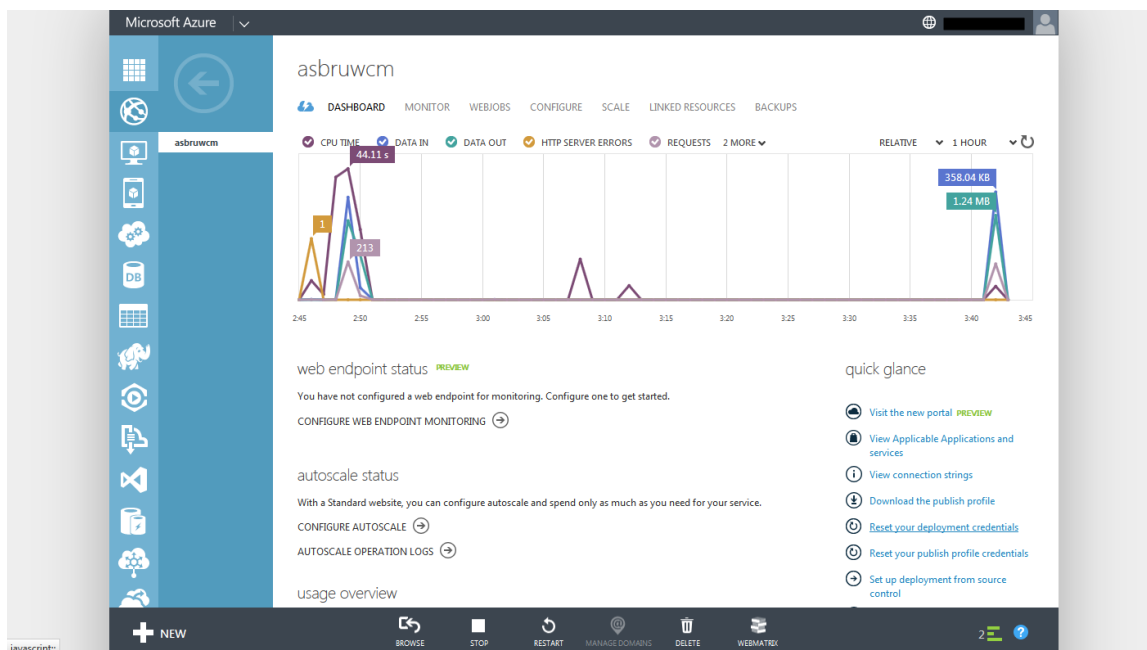


2.5.6 アップロード

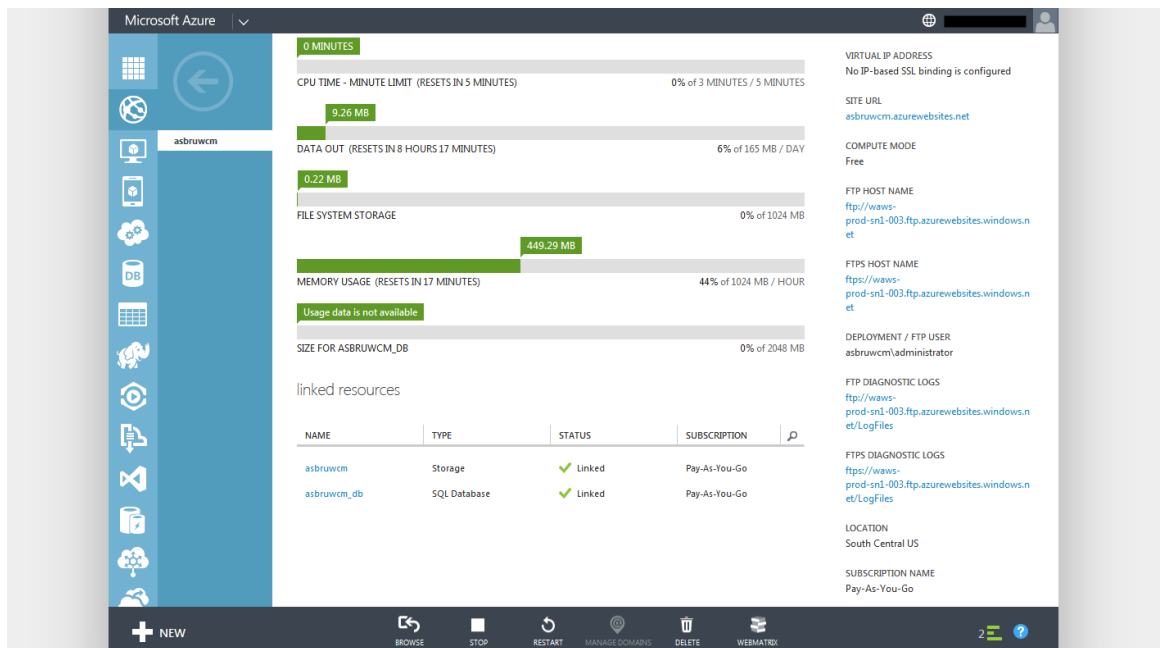
HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアパッケージの ZIP 圧縮ファイルアーカイブは、解凍して、中に含まれているファイルやフォルダを Azure Web サイトへアップロードする必要があります。アップロードしたソフトウェアパッケージは、選択したプラットフォームと合致することを確認してください。

HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアパッケージのファイルやフォルダは、FTP ソフトウェアクライアントを使って Azure Web サイトへアップロードすることが可能です。任意で、ソースコントロールシステムを使用することも可能です。詳しくは、一般的な Azure 文獻をご参照ください。

「Reset Your Deployment Credentials (デプロイメント認証情報をリセット)」を選択して、FTP 経由で Azure Web サイトにアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力します。



「FTP/FTPS Host Name」を書き留めておいてください。Azure Web サイトへアクセスする際に、先程の FTP ユーザ名とパスワードと共に必要になります。（注意：FTP ユーザ名は、入力した FTP ユーザ名のままでなく、Azure 管理ページに記載されている通り「WEBSITENAME\FTPUSERNAME」となります。）



HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアパッケージのファイルとフォルダは、Azure Web サイトの「/site/wwwroot/」フォルダ（.NET および PHP）、もしくは「/site/wwwroot/webapps/ROOT/」フォルダにアップロードしてください。これらのフォルダは、「config.aspx」/「config.jsp」/「config.php」と「index.aspx」/「index.jsp」/「index.php」ファイル、並びに「App_Code」と「webadmin」フォルダが配置される場所です。HeartCore Web コンテンツ管理ソフトウェアパッケージの全てのファイルとフォルダをアップロードする必要がありますのでご注意ください。

お使いのインターネット接続スピードによっては、ソフトウェアパッケージのアップロードに数分を要する可能性があります。

2.5.7 クイックスタート設定

ソフトウェアのアップロードが完了すると、Web サーバーおよびデータベースサーバーが起動状態となり、Azure Web サイト URL（例：<http://our-new-website.azurewebsites.net/webadmin/>）にてアクセスできるようになります。アクセスすると、HeartCore Web コンテンツ管理システムのクイックスタート設定が表示されます。

クイックスタート設定では、表示されるデータベース接続文字列をそのまま保存してください。



3 クイックスタート設定

HeartCoreWeb コンテンツ管理システムは純正の Web アプリケーションですので、いずれかの使用可能なプログラミング言語バージョンに対応している Web サーバであれば動作します。またそれとは別に、いくつか特別な要件、主には Web サーバ上で正しい位置にインストールすることと、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムがサーバ上でファイルを作成および書き込みできる許可を持っていることなどがあります。

クイックスタート設定 Web ページでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定、使用開始するためのいくつかの簡単なステップを案内します。設定が必要な次のステップが表示されます。例えば、データベース接続文字列、ライセンスキー、スーパーアドミン、連絡先詳細、Web サイトの初期容量といった、クイックスタート設定に必要な詳細事項を選択/入力してください。

ひとつのステップを完了するか、もしくは左メニューのホームをクリックすると、クイックスタート設定 Web ページに戻り、次のステップに進みます。

これらのステップが完了すると、クイックスタート設定ページではなく、HeartCore Web コンテンツ管理のメインページが表示されます。

3.1 サーバ

HeartCoreWeb コンテンツ管理システムは純正の Web アプリケーションですので、いずれかの使用可能なプログラミング言語バージョンに対応している Web サーバであれば動作します。またそれとは別に、いくつか特別な要件、主には Web サーバ上で正しい位置にインストールすることと、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムがサーバ上でファイルを作成および記述するための許可を持っていることなどがあります。

サーバのクイックスタート設定は、様々に異なるサーバ設定と条件を一覧にしチェックします。

- HeartCore Web コンテンツ管理システムインストール
HeartCore Web コンテンツ管理システムソフトウェアは、Web サイトの home/root folder、即ちお客様の Web サイトドメイン名アドレス「www.yourwebsite.com」が示している Web サーバ上のフォルダにインストールされていなければなりません。それにより、「<http://www.yourwebsite.com/webadmin/>」で Web コンテンツ管理システムの管理 Web ページへアクセス可能となります。
- HeartCore Web コンテンツ管理システム設定
HeartCore Web コンテンツ管理システムは、たくさんの設定ファイルを使用しますが、それらは少なくとも、HeartCore Web コンテンツ管理システムの初期設定段階において、作成および書き込み権限を持っている必要があります。
- Web サイトファイル作成および書き込み権限
HeartCore Web コンテンツ管理システムは、Web サイトに画像やその他のファイルをアップロード出来るよう、「画像」、「ファイル」、「アップロード」における作成権限と書き込み権限を持っている必要があります。「products.html」などの静的ファイル名を Web サイト上で公開するには、HeartCore Web コンテンツ管理システムは Web サイトホーム/ルートフォルダ、または他のフォルダにおいて、静的ファイル名に公開されたコンテンツに対

し、ファイルを作成／書き込みできる権限を持っている必要があります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムのサーバチェックで赤文字の警告が出た場合、Web サーバの設定、もしくは HeartCore Web コンテンツ管理システムのインストールをチェックし変更する必要があります。さらに、HeartCore Web コンテンツ管理システムにより、黄色字で、制限における警告文などが報告される場合があります。



3.2 データベース

HeartCore Web コンテンツ管理システムはデータベース主導型です。はじめの大切な設定ステップとして、HeartCore Web コンテンツ管理システムが使用するデータベースを設定します。HeartCore Web コンテンツ管理システム設定の場合には、操作のすべてにエラーが出てしまうか、デフォルトのテンポラリーデータベースのみに適合され、後にデータを失う可能性があります。

Web コンテンツ管理システムは、データベースのタイプ、データベース名、データベースの場所、データベースへの接続方法、データベースに接続するためのユーザ名とパスワード、を定義するデータベース接続文字列の設定が必要です。

まず初めに、お持ちの一般的なシステム／データベース管理ツールにて Web コンテンツ管理システムで使用するデータベースを作成する必要があります、もしくは Web ホスティング サービスプロバイダ/システム管理者よりデータベース詳細情報が提供されます。

データベースクイックスタート設定には、様々なタイプのデータベース用に多くの異なるデータベース接続オプションが一覧表示されます。ご利用になるデータベースに適したオプションを選択してください。選択されたデータベースタイプとデータベース接続用の正しいフォーマットのデータベース接続文字列がセットされます。その後、実際のデータベースに合致するようこのデータベース接続文字列のデータベース名、アドレス、ユーザ名とパスワードを変更し、「保存」を選択します。

様々なデータベース接続オプションの詳細については、後述するデータベース設定セクションを参照してください。システムの違いのため、データベース設定は、HeartCore Web コンテンツ管理システムに使用するオペレーティングシステム、プログラミング/スクリプト言語、データベースプロダクトによって異なります。ご使用の言語に応じて、3.2.1.NET 用データベース接

続、3.2.2JSP用データベース接続、3.2.3PHP用データベース接続の項をそれぞれご参照ください。最後に、3.2.4データベース接続文字列も続けてご覧下さい。



3.2.1 .NET 用データベース接続

プログラミング/スクリプト言語が.NETの場合、直接データベースにアクセスするか、ODBCデータソース (DSN) 経由でアクセスするかを選びます。

HeartCore コンテンツ管理システムは、指定されたデータベースドライバを使って、サポートしている全てのデータベース製品にアクセスすることができます。データベースに直接接続するには、Webホスティングプロバイダよりデータベースインスタンスに接続するためのユーザ名やパスワードおよびデータベースインスタンス名を入手する必要があります。Webホスティングプロバイダは、使用するネイティブデータベースドライバをインストールし設定しておく必要があります。デフォルトのダイレクトデータベースドライバ設定オプションは、すべてのデータベースサーバに提供されているわけではありませんのでご注意ください。その他のデータベースサーバおよびドライバについては、お使いのデータベースサーバおよびドライバのデータベース接続文字列の詳細を確認し、"mssql:"、"mysql:"、"oracle:"、"db2:" あるいは "pgsql:" をデータベース接続文字列の前に入れてください。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、ODBCデータソース (DSN) 経由で、サポートしている全てのデータベース製品にアクセスすることができます。ODBCデータソース (DSN) 経由でデータベースにアクセスするには、Webホスティングプロバイダがデータベースサーバ上でODBCデータソース (DSN) を設定し、データベースインスタンスに接続するためのユーザ名やパスワードおよびODBCデータソース名 (DSN) が必要です。

HeartCore Web コンテンツ管理システムにおいて、ネイティブデータベースドライバ経由でデータベースインスタンスに直接アクセスする設定をするには、下記のオプションより一つを選択して下さい。

- Microsoft SQL Server
- MySQL Database Server
- Oracle Database Server

- IBM DB2 Universal Database Server
- PostgreSQL Database Server

ODBC データソース (DSN) 経由でデータベースにアクセスするように HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定するには、「システム」メニューの「データベース」セクションで、お使いのデータベース製品に該当するものを下記より一つ選択してください。

- Microsoft SQL Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- MySQL Database Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- Oracle Database Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- IBM DB2 Universal Server – ODBC Data Source Name (DSN)
- PostgreSQL Database Server – ODBC Data Source Name (DSN)

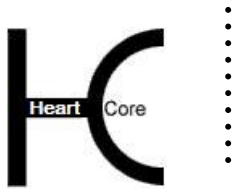
データベースサーバを選んだら、「3.2.5 データベース接続文字列」に記載されているように、データベース接続文字列を適合させてください。

3.2.2 JSP 用データベース接続

プログラミング/スクリプト言語が JSP の場合、ネイティブデータベースドライバ、ODBC データソース (DSN)、あるいは Java データソースで直接データベースインスタンスに接続することができます。

- Java データソース経由でデータベースに接続するには、Web ホスティングプロバイダが Java アプリケーションサーバの Java データソースを設定し、データベースインスタンスに接続するための、Java データソース名、ユーザ名、そしてパスワードを提供する必要があります。
- ODBC データソース (DSN) 経由でデータベースに接続するには、Web ホスティングプロバイダが Web データベースサーバに、ODBC データソース (DSN) を設定し、データベースインスタンスに接続するための、ODBC データソース名 (DSN)、ユーザ名、パスワードを提供する必要があります。また、Web ホスティングプロバイダは、`sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver` データベースドライバをインストールし、設定しておく必要があります。
- データベースに直接接続するには、Web ホスティングプロバイダが、データベースインスタンスに接続するためのデータベースインスタンス名、ユーザ名、パスワードを提供する必要があります。また、Web ホスティングプロバイダは使用されるネイティブデータベースドライバをインストール、設定しておく必要があります。

HeartCore Web コンテンツ管理データベース設定は `oracle.jdbc.Driver.OracleDriver` のような、標準のネイティブドライバ用のオプションを含みますが、全ての JDBC 準拠データベースドライバが利用可能です。使用するデータベースドライバに合わせて、データベースドライバクラス名 (例えば “`oracle.jdbc.driver.OracleDriver`”) や HeartCore Web コンテンツ管理システムの接続文字列のコネクションパラメータ (例えば “`jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:database`”) を変更してください。



ネイティブデータベースドライバで、直接データベースインスタンスにアクセスするよう HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定するには、下記のオプションの中から一つ選んでください。

- Microsoft SQL Server
- MySQL Database Server
- Oracle Database Server
- IBM DB2 Universal Database Server
- PostgreSQL Database Server

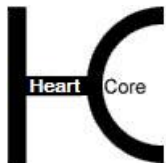
ODBC データソース (DSN) 経由で、直接データベースインスタンスにアクセスするよう HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定するには、下記のオプションの中から一つ選んでください。

- Microsoft SQL Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- MySQL Database Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- Oracle Database Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- IBM DB2 Universal Database Server – ODBC Data Source Name (DSN)
- PostgreSQL Database Server – ODBC Data Source Name (DSN)

Java データソースで、データベースインスタンスにアクセスするよう HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定するには、下記のオプションの中から一つ選んでください。

- Microsoft SQL Server - Java Data Source
- MySQL Database Server - Java Data Source
- Oracle Database Server - Java Data Source
- IBM DB2 Universal Database Server – Java Data Source
- PostgreSQL Database Server – Java Data Source

データベースオプションを選択したら、「3.2.5 データベース接続文字列」に記載されているように、データベース接続文字列を整合させてください。



Microsoft SQL Server

Microsoft SQL Server

`mssql.com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver:username:password@jdbc:sqlserver://localhost`

この設定は、データベースへ接続する際にMicrosoft SQL Server JDBCドライバを使用します。

Microsoft SQL Server (ODBC(DSN)を使用して接続します)

`mssql:sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver:username:password@jdbc:odbc:database`

この設定は、データベースへ接続する際にSUN JDBC ODBCを使用してデータベースにアクセスします。サーバー上で構成されている必要があります。

Microsoft SQL Server (Javaデータソースを使用して接続します)

`mssql:username:password@jdbc/database`

この設定は、データベースへ接続する際にJavaデータソースとしてアクセスします。Javaアプリケーションサーバー上で設定されている必要があります

MySQL Database Server

MySQL Database Server

`mysql.com.mysql.jdbc.Driver:username:password@jdbc:mysql://localhost/database`

この設定は、MySQLへ接続する際にMySQL JDBCドライバを使用して接続されます。

MySQL Database Server - (ODBC (DSN)を使用して接続します)

`mysql:sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver:username:password@jdbc:odbc:database`

この設定は、データベースへ接続する際にSUN JDBC ODBCを使用してデータベースにアクセスします。サーバー上で構成されている必要があります。

MySQL Database Server (Javaデータソースを使用して接続します)

`mysql:username:password@jdbc/database`

この設定は、データベースへ接続する際にJavaデータソースとしてアクセスします。Javaアプリケーションサーバー上で設定されている必要があります。

Oracle Database Server

Oracle Database Server

`oracle.oracle.jdbc.driver.OracleDriver:username:password@jdbc:oracle:thin:@//localhost:1521/database`

この設定は、Oracleへ接続する際にOracle JDBCドライバを使用して接続されます。

Oracle Database Server (ODBC (DSN)を使用して接続します)

`oracle:sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver:username:password@jdbc:odbc:database`

この設定は、データベースへ接続する際にSUN JDBC ODBCを使用してデータベースにアクセスします。サーバー上で構成されている必要があります。

Oracle Database Server (Javaデータソースを使用して接続します)

`oracle:username:password@jdbc/database`

この設定は、データベースへ接続する際にJavaデータソースとしてアクセスします。Javaアプリケーションサーバー上で設定されている必要があります

IBM DB2 Universal Database Server

IBM DB2 Universal Database Server

`db2.COM.ibm.db2.jdbc.app.DB2Driver:username:password@jdbc:db2://localhost/database`

IBM DB2 Universal Database Server

IBM DB2 Universal Database Server

`db2.com.ibm.db2.jcc.DB2Driver:username:password@jdbc:db2://localhost:50000/database`

IBM DB2 Universal Database Server

IBM DB2 Universal Database Server(ODBCを使用して接続します)

`db2:sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver:username:password@jdbc:odbc:database`

この設定は、データベースへ接続する際にSUN JDBC ODBCを使用してデータベースにアクセスします。サーバー上で構成されている必要があります。

IBM DB2 Universal Database Server(Javaデータソース)

`db2:username:password@jdbc/database`

この設定は、データベースへ接続する際にJavaデータソースとしてアクセスします。アプリケーションサーバー上で設定されている必要があります。

PostgreSQL Database Server

PostgreSQL Database Server

`pgsql.org.postgresql.Driver:username:password@jdbc:postgresql://localhost/database`

この設定は、PostgreSQL JDBCドライバを使用して接続されます。

PostgreSQL Database Server(ODBCを使用して接続します)

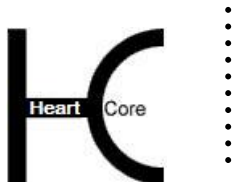
`pgsql:sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver:username:password@jdbc:odbc:database`

この設定は、データベースへ接続する際にSUN JDBC ODBCを使用してデータベースにアクセスします。サーバー上で構成されている必要があります。

PostgreSQL Database Server(Javaデータソース)

`pgsql:username:password@jdbc/database`

この設定は、データベースへ接続する際にJavaデータソースとしてアクセスします。Javaアプリケーションサーバー上で設定されている必要があります。



3.2.3 PHP 用データベース接続

プログラミング/スクリプト言語が PHP の場合、ネイティブデータベースドライバや ODBC データベース (DSN) 経由で直接データベースインスタンスに接続できます。

- ODBC データソース (DSN) 経由でデータベースに接続するには、Web ホスティングプロバイダは Web データベースサーバ上の ODBC データソース名 (DSN) を設定し、データベースインスタンスに接続するための、ODBC データソース名 (DSN)をはじめ、ユーザ名、パスワードを提供する必要があります。
- 直接データベースに接続するためには、Web ホスティングプロバイダはデータベースインスタンスに接続するデータベースインスタンス名、ユーザ名、そしてパスワードを提供する必要があります。

ネイティブデータベースドライバを使用して直接データベースにアクセスするよう HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定するには、下記のオプションの中から一つ選んでください。

- Microsoft SQL Server
- MySQL Database Server
- Oracle Database Server
- IBM DB2 Database Server
- PostgreSQL Database Server

ODBC データソース(DSN)経由でデータベースにアクセスするよう HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定するには、下記のオプションの中から一つ選んでください。

- Microsoft SQL Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- MySQL Database Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- Oracle Database Server - ODBC Data Source Name (DSN)
- IBM DB2 Universal Database Server – ODBC Data Source Name (DSN)
- PostgreSQL Database Server – ODBC Data Source Name (DSN)

データベースを選んだら、「3.2.4 データベース接続文字列」に記載されているように、データベース接続文字列を調整してください。

3.2.4 データベース接続文字列

データベース接続オプションを選択すると、データベース欄にデフォルトのデータベース接続文字列が表示されます。デフォルトのデータベース 接続文字列 内の "database"、"username"、"password" を Web ホスティングプロバイダから提供されたデータベースインスタンスの ODBC データソース名 (DSN) / データベースインスタンス名、ユーザ名、パスワードに置き換えてください。

データベースサーバは、Web ホスティングプロバイダによっては、Web サーバと同一のコンピュータで稼動している場合もあれば、データベースサーバと Web サーバがそれぞれ別のコンピュータで稼動している場合もあります。

- データベースサーバが Web サーバと同じコンピュータ上で稼動している場合は、データベース接続文字列にある“localhost”をそのまま使用します。
- データベースサーバが Web サーバと違うコンピュータ上で稼動している場合、データベース接続文字列にある“localhost”を、Web ホスティングプロバイダから提供されたインターネットドメイン名やデータベースサーバの IP ナンバーで置き換えます。

データベースのオプションを選択し、データベース接続文字列を整合したら、保存をクリックしてください。

もしエラーになってしまう場合には、Web サーバがデータベース設定を認識するのに数秒かかる可能性があるため、1 分間待って、それから保存を再度クリックしてください。もしエラーが続く場合には、データベース接続文字列を確認し、再度保存をクリックしてください。

データベースインスタンスへの接続が正しく行われるならば（すなわち、保存をクリックしても、エラーにならない場合）、データベースを初期化する準備が整いました。

3.3 ライセンス

HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用するには、株式会社ジゾン (www.xyxon.co.jp) からライセンスを取得し、ライセンスキーを設定する必要があります。Web ホスティングプロバイダが HeartCore Web コンテンツ管理システムを提供している場合は、そちらよりライセンスが提供されます。

HeartCore Web コンテンツ管理システムとライセンスは、それぞれ特徴の異なる様々なエディションにて利用可能です。

- パーソナルエディション：
小規模ビジネスや個人的 Web サイトを作成し管理するための、個人 Web サイト管理者用シングルユーザシステム
- プロフェッショナルエディション：
大規模 Web サイトや複数の Web サイト管理者向け、あらゆるビジネスニーズをサポートする全標準システム
- エンタープライズエディション：
他の技術的ビジネスシステムとのバックエンド統合をサポートする拡張システム
- ホスティングエディション：
複数クライアントのホスティングや管理をサポートするインターネット、ホスティング、アプリケーションサービスプロバイダシステム

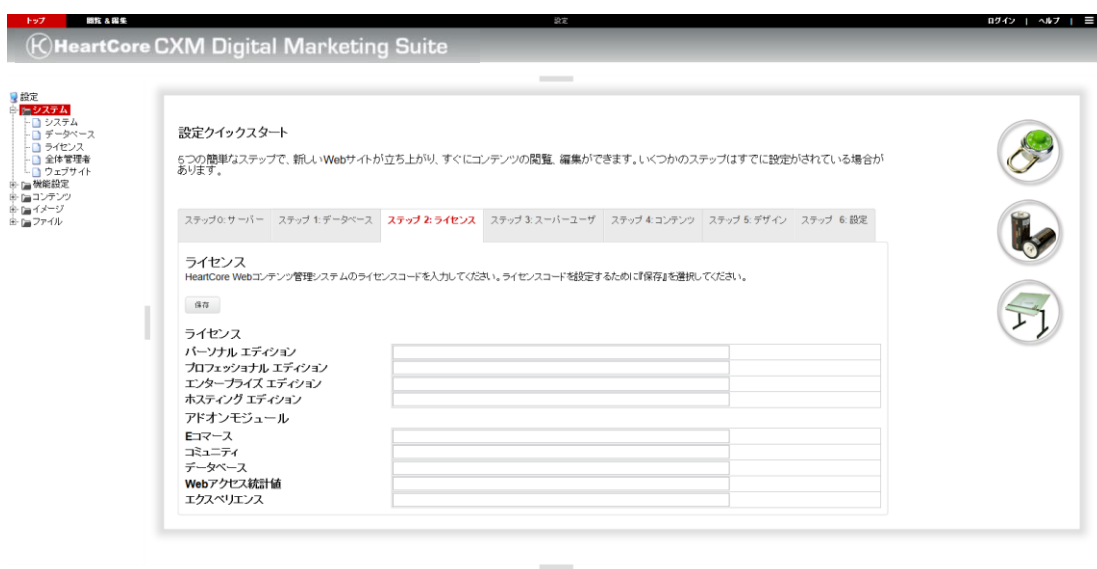
その他、多数の HeartCore Web コンテンツ管理追加モジュールとライセンスが利用可能です。

- E コマースモジュール：
商品カタログ、ショッピングカート、チェックアウト、支払い手続き、注文確認、注文通知、注文追跡

- コミュニティモジュール：
ユーザ登録、パーソナライズ機能、掲示板、チャット広場、問題追跡、投票、メーリングリスト、コミュニケーションツール
- データベースモジュール：
データベース作成、インポート／エクスポート、同期化、データベース管理、閲覧検索
- 統計モジュール
Webサイトの使用状況モニタリングを目的としたアクセス統計値

HeartCore Web コンテンツ管理システムと追加モジュールのライセンスを設定するには、株式会社ジゾンから提供されたすべてのライセンスコードを適切な箇所にコピー／入力し、保存をクリックしてください。

保存をクリックする際にエラーが発生した場合、ライセンスコードを確認し、再度やり直してください。



3.4 スーパーユーザ（全体管理者）

HeartCore Web コンテンツ管理スーパーユーザは、特別な権限とシステム設定へのアクセス許可を持つメインの Web サイト管理者です。

スーパーユーザ Web サイト管理者のためのユーザ名とパスワード、そしてEメールアドレスを設定する必要があります。デフォルトではスーパーユーザのユーザ名とパスワードは“admin”と“admin”に設定されています。パスワードを他のものに変更しないと誰もが簡単に Web サイト管理のためのアクセスを権不正に得ることができます。

スーパーユーザのユーザ名やパスワードを覚えておくことは重要です。そうしておかないと、HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスすることができず Web サイトを管理できません。

保護手段として、スーパーユーザ Web サイト管理者用に有効な Eメールアドレスを設定し、変更する場合は忘れずに更新してください。もしスーパーユーザのユーザ名とパスワードを忘れてしまった場合、設定したスーパーユーザEメールアドレスにユーザ名とパスワードを送信さ

せることが、唯一の簡単な取得手段です。それ以外には、直接データベースにアクセスし、手動でスーパーユーザのユーザ名とパスワードをリセットもしくは取得しなければいけません。

Webサイトのコンタクトフォームなどのデフォルトの送付先となる追加のEメールアドレスも設定してください。

Eコマース追加モジュールをご利用の場合は、Webサイトの注文などのデフォルトの送付先となる追加のEメールアドレスも設定してください。

HeartCore Web コンテンツ管理システム スーパーユーザとEメールアドレスを設定するには、任意のユーザ名とパスワード、Eメールアドレスを入力し、保存をクリックします。



3.5 Web サイトコンテンツ

HeartCore Web コンテンツ管理システムを素早く始めるために、既存のHTMLファイルベースのWebサイトか、もしくはHeartCore Web コンテンツ管理システム内に含まれている様々な異なるサンプルや、クイックスタートWebサイトの中からいずれかをインポートする事が出来ます。

後で、これら既存のHTMLファイルベースのWebサイトかもしくはサンプル、クイックスタートWebサイトを、データベース設定Webコンテンツ管理ページを通して再インポートすることも出来ます。(詳しくは、「設定ガイド」をご参照ください。)

3.5.1 既存Webサイトのインポート

既存のHTMLファイルベースのWebサイトをお持ちである場合、「既存のWebサイトをインポートする」オプションを選択する事が出来ます。そして、「ページタイトル編集可能領域」また、「ページコンテンツ編集可能領域」を選択できます。もしこの既存WebサイトがDreamweaverテンプレートで作成されたものの場合、様々な「編集可能領域」がHTMLファイルから抽出されてリスト表示される可能性があり、お使いのWebページのタイトルを含む編集可能領域(もしあれば)、そしてWebページのプライマリコンテンツを含む編集可能領域(もしあれば)を、選択しなければなりません。そうでなければ、単にデフォルトの「なし」、「すべて」を選択します。最後に、「初期化とWebサイトをインポートする」を選択し、既存のWebサイトHTMLファイルをインポートします。

Web コンテンツ管理システムは、Web サイト上の「.dwt」ファイル、「.html / htm」ファイル、イメージ、そしてその他のファイルを分析してインポートします。

インポートの際に、下部に出るドロップダウンから、Dreamweaver ベースで作成したテンプレートファイルの編集可能領域を選択できます。選択された領域以外の各ファイル (.html / htm) は、「ページ」として、Web コンテンツ管理システムにインポートされます。

もし、Web サイト home/root フォルダに、「index.html」ファイルがある場合は、このページが「デフォルトページ (ホームページ)」になります。Web サイトに「.dwt」ファイルがある場合、このファイルは「テンプレート」として Web コンテンツ管理システムにインポートされ、それらのテンプレートは「.html / htm」Web サイトファイルから作成された「ページ」に使われます。「.dwt」ファイル内に追加領域があれば、それらは「classes」、「elements」として Web コンテンツ管理システムにインポートされます。

3.5.2 サンプルクイックスタート Web サイトのインポート

使用可能なサンプルやクイックスタート Web サイトが表示されます。ここに含まれるいくつかのサンプルやクイックスタート Web サイトは、設定されているライセンスキーによっては使用できずグレーアウトされている場合があります。

- **Basic**
作成済み、定義済みの特別なページを含む、空白の Web サイトです。これは、一から Web サイトを構築する場合に推奨されるオプションです。
- **Empty**
必要な特別ページも含め全てを一から作成するための完全に空白の Web サイト。(通常は、この“Empty”ではなく“Basic” Web サイトの使用を推奨)
- **Business Website (推奨)**
多くの様々な Web コンテンツ管理システム機能を使った高度なサンプル Web サイトです。企業の Web サイトで一般的に使用されるコンテンツや機能を備えており、容易に変更を加えることが可能で、すぐに使用開始できます。不要なコンテンツや機能の削除、またデザインの修正も簡単です。コンテンツや機能を追加することも可能です。
- **Eagle Golf**
多くの様々な Web コンテンツ管理システム機能を使った高度なサンプル Web サイトです。それぞれの HeartCore Web コンテンツ管理システムのエディション用に、多様な Eagle Golf サンプル Web サイトが用意されています。

Web サイトコンテンツを初期化するには、リストされたサンプルとクイックスタート Web サイトをひとつ選び「Web サイトを選択する」ボタンを押してください。Web サイトコンテンツの初期化を再度確認するため「初期化と Web サイトのインポート」ボタンを選択してください。(または、「ステップ 4 : Web サイトコンテンツ」タブを選択すると、使用可能なサンプルとクイックスタート Web サイトのオプションが再度表示されます。)

この作業により、選択された Web サイトコンテンツデータが、Web コンテンツ管理システムのデータベースにインポートされます。完了するまで数分かかることがあります。データベースインポートの進捗情報は、Web ブラウザに表示されます。

もしデータベースの初期化が正常に完了しなかった場合、再度データベースを初期化する必要があります。前述されたように、データベース初期化のステップを再度行ってください。詳細は「データベース」セクションをご参照ください。インポートされる Web サイトが比較的大き

い場合、あるいは／また、データベース側のデータインポートが遅い場合、データベースインポートが完了する前に Web サーバが「タイムアウト」することがありますその場合は Web サイトコンテンツのインポートに使用されるリソースを増やす必要があるでしょう。詳細は、「設定ガイド - データベース設定 - 高度なインポート」をご参照ください。



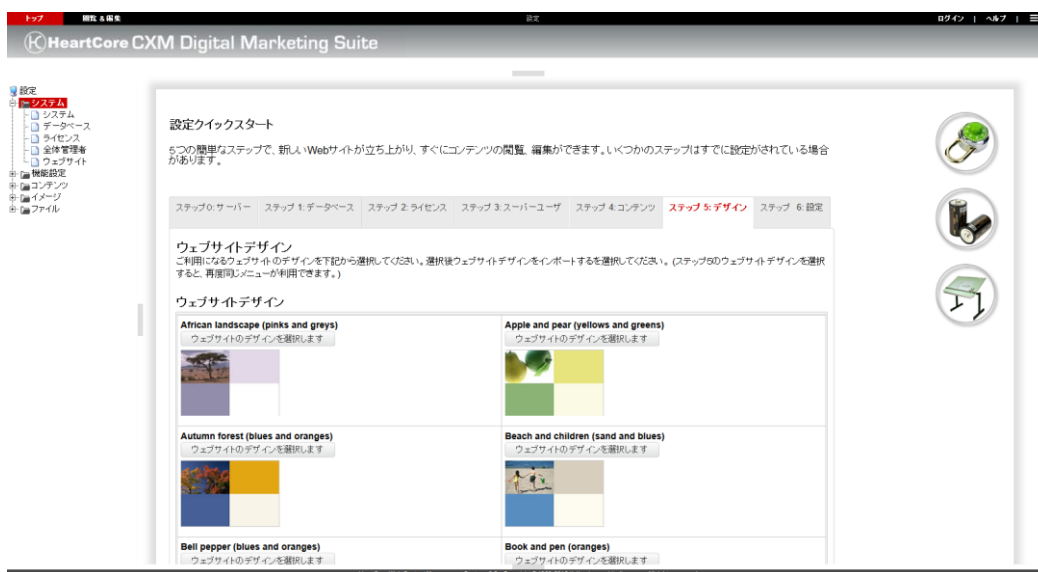
3.6 Web サイトデザイン

最後に、Web サイトをすぐに構築するために、HeartCore コンテンツ管理システムには、様々なクイックスタート Web サイトデザインが含まれています。使用可能なクイックスタート Web サイトデザインが一覧表示されます。

選択/インポートされた Web サイトコンテンツサンプルやクイックスタート Web サイトにより、Web サイトデザインも既にインポート済みの場合があります。この場合は、Web サイトデザインクイックスタート設定ステップはスキップされます。

Web サイトデザインをインポートするには、リストされた Web サイトデザインの中からひとつ選び「Web サイトデザインを選択する」ボタンを押してください。Web サイトデザインのインポートを確認するには「Web サイトデザインのインポート」ボタンを選択してください。（または、「ステップ 5 : Web サイトデザイン」タブを選択すると、使用可能なサンプルとクイックスタート Web サイトデザインのオプションが再度一覧表示されます。）

この作業により、選択された Web サイトデザインデータが、Web コンテンツ管理システムのデータベースにインポートされます。数秒から数分で完了するはずですが、データベースインポートの進捗情報は、Web ブラウザに表示されます。



3.7 Web サイト設定

最後に、さまざまな Web サイト設定を調節できます。

基本的な Web サイトの設定は、2つの特別な HTML ヘッダーであり、これはどのバージョンの HTML コード、そしてどのキャラクタセットエンコーディングを Web サイトに使っているのかを、Web ブラウザに伝えます。これに対し、もし特にお好みの設定などがなければ、「HTML DOCTYPE」を空白のままにするか、「HTML 4.01 Transitional」オプションを選択、そして「HTML コンテンツタイプ文字コード」をデフォルトの「UTF-8」にセットしてください。

更に様々な Web サイト設定は、インポートした Web サイトコンテンツと Web サイトデザインに応じて表示されます。ここでは、初期設定のままにしておき、後で変更しても構いません。



4 インストール及び設定完了後

これまでのセクションに従って、データベース、ライセンス、スーパーユーザ、Web サイトコンテンツ、Web サイトデザインを設定し終わると、HeartCore Web コンテンツ管理システムを使い始める準備が整います。

HeartCore Web コンテンツ管理システムをカスタマイズしたり、それぞれの要求を満たす追加機能を有効化するための設定オプションが他にもたくさんあります。たとえ広範囲にシステムを使用した後でも、HeartCore Web コンテンツ管理システムを再設定して、いつでも特定の機能を有効化、無効化することができます。ですので、実際に機能が必要になるまで、全ての機能を有効にしておく必要はありません。詳細については、別冊「設定ガイド」をご覧ください。

最初は、基本操作に慣れるまで基本的な Web コンテンツ管理機能を使用することをお勧めします。詳細は、別冊「ウェブサイト作成者ガイド」「ウェブサイト管理者ガイド」をご確認ください。

HeartCore Web コンテンツ管理データベースを設定し、初期化すると、スーパーユーザ Web サイト管理者として自動的にログインされます。HeartCore Web コンテンツ管理 Web ページの右上にある“Logout”をクリックすると、ログアウトできます。

ログアウトすると、新しいサンプル Web サイトのホームページが表示されます。



The screenshot shows a sample website homepage for "My Business". The page features a navigation menu with categories like "企業情報" (Company Information), "商品とサービス" (Products and Services), "ニュースとメディア" (News and Media), "採用情報" (Recruitment Information), and "IR情報" (IR Information). The main content area includes a featured section for "新ビジネスの始動 新製品" (New Business Start-up New Products) with a link to "もっと詳しく" (Learn More). Below this are sections for "弊社の事業について" (About Our Business), "商品とサービス" (Products and Services), "会社概要" (Company Overview), and "採用情報" (Recruitment Information). A "最新ニュース" (Latest News) section displays two news items. An "オンラインショップ" (Online Shop) section shows a product listing for "商品 1" (Product 1) with a price of ¥100.00. A "クイックリンク" (Quick Links) section provides links to "店舗検索" (Store Search), "商品サポート" (Product Support), "求人検索" (Job Search), and "年次報告" (Annual Report). The footer contains legal notices and a copyright notice for "2020 My Business. All rights reserved."

4.1 ログイン

Webサイトを管理する HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスするには、通常の Web アドレスに“/webadmin/”を追加した URL を開きます。例えば、<http://127.0.0.1> というアドレスで Web サイトにアクセスするならば、HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスするには、<http://127.0.0.1/webadmin/> といったアドレスを使用します。

HeartCore Web コンテンツ管理システムへアクセスするには、まず、スーパーユーザもしくは他の Web サイト管理者へ設定したユーザ名とパスワードで認証を得てログインします。大文字、小文字、スペース、句読点に注意し、正確にユーザ名とパスワードを入力してください。



4.2 ログアウト

ログインが無事に完了したら、Webサイトの HeartCore Web コンテンツ管理システムへアクセスできます。同時に、あなたのコンピュータにアクセスできる誰もが、Web コンテンツ管理システムへアクセスできるようになります。時間の長短に関わらずコンピュータから離れるときは、HeartCore Web コンテンツ管理システムをログアウトし、他の人が Web サイトを変更しないようにしてください。他の人も使用可能なコンピュータを使用しているのならば、このことは特に重要です。

HeartCore Web コンテンツ管理システムをログアウトするには、HeartCore Web コンテンツ管理や、閲覧 & 編集ページの左上にある、“ログアウト”リンクをクリックしてください。ログアウト後は、Webサイトのホームページが表示されます。

Web サーバの設定により、自動的にログアウトされることがあります。厳密には、ログイン/ログアウトは Web サーバの“セッション変数”と呼ばれるものによって制御されています。Web サーバは、数秒から数日でセッション変数が期限切れになるよう設定されている可能性があります。

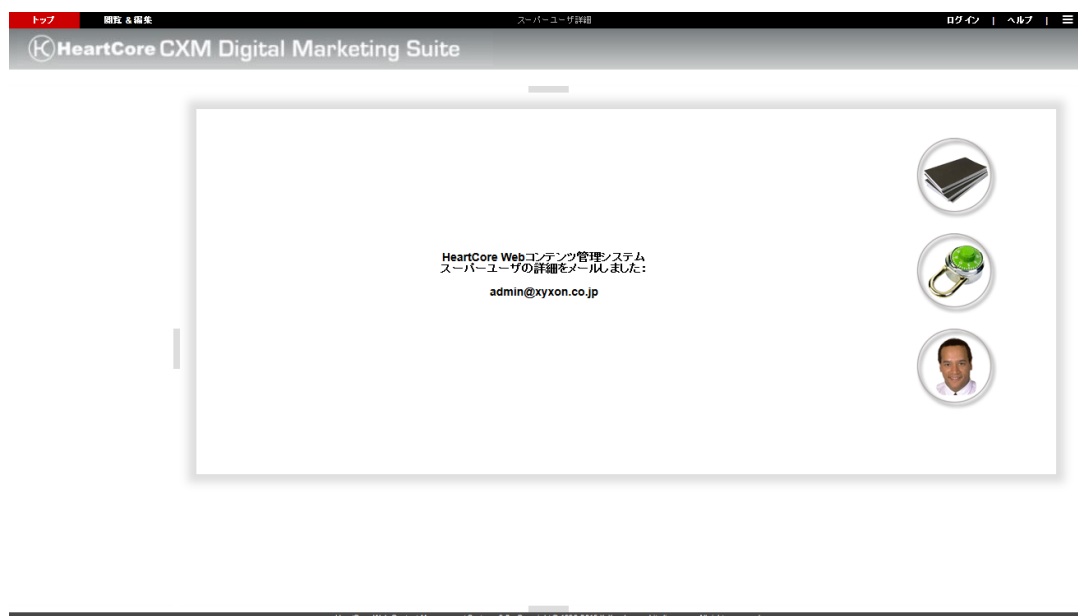
HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用している間に、Web サーバのセッション変数によってログインの期限が切れるようであれば、再度ログインしてください。例えば、Web ページのひとつのコンテンツを編集するのに長時間かかり、保存する前にログインが切れてしまったら保存されないの、定期的に作業を保存してください。もしくは、Web ホスティングプロバイダに、Web サーバのセッション変数有効期限を延ばしてもらうように依頼することもできます。通常、Web サーバ設定は問題ないはずですが、場合によっては数分でセッション変数が切れるように設定されている可能性があります。

4.3 スーパーユーザのユーザ名とパスワード取得

スーパーユーザのユーザ名とパスワードを忘れて、失くしたりしないように気をつけてください。これらは HeartCore Web コンテンツ管理システムへのフルアクセス権を得るためには欠かせません。

しかしながら、もし、スーパーユーザのユーザ名とパスワードを忘れてしまった場合、有効なスーパーユーザEメールアドレスを設定していれば取得が可能です。

スーパーユーザのユーザ名とパスワードを取得するには、通常の Web サイトアドレスに、“/webadmin/password/”を追加したアドレスを開きます。例えば、通常 `http://127.0.0.1` というアドレスで Web サイトにアクセスしている場合、“`http://127.0.0.1/webadmin/password/`”というアドレスを使用し、設定されたスーパーユーザEメールアドレスに、ユーザ名とパスワードを送信させます。



スーパーユーザのユーザ名とパスワードを忘れて失くした場合に、もしスーパーユーザEメールアドレスが設定されていなかったり有効でないとすると、他に簡単にユーザ名とパスワードを取得する方法はありません。

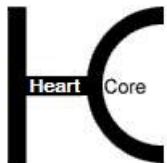
その他の方法としては、HeartCore Web コンテンツ管理データベースに手動でアクセスし、下記 SQL データベースコマンドステートメントを使って、スーパーユーザユーザ名とパスワードをデフォルトの“admin”へリセットします。

```
DELETE * FROM config WHERE configname='superadmin';
DELETE * FROM config WHERE configname='superadmin_password';
```

警告：これは専門的な知識を必要とし、エラーを起こすと Web サイトコンテンツ等の一部、あるいは全てを失ってしまう可能性があります。スーパーユーザのユーザ名とパスワードを失くさないように注意してください。

4.4 ホーム

HeartCore Web コンテンツ管理システムへのログインが成功すると、メインの管理ページが表示されます。





5 ソフトウェア更新

HeartCore Web コンテンツ管理システムは今後も改善され、拡張していきます。最新版は株式会社ジゾンのサイトよりダウンロードが可能です。

バージョン 6.3 以降のすべての Web コンテンツ管理システムの管理ページの下の方には、HeartCore Web コンテンツ管理システムの現在のバージョンが表示されています。（それ以前のバージョンでは、Web コンテンツ管理システムの管理ページには現在のバージョン番号は表示されません。しかし、Web コンテンツエディタのヘルプポップアップウィンドウの下に表示される Web コンテンツエディタのバージョン番号により、判断可能です。）

このセクションでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムをアップグレードする一般的な手順を説明いたします。しかし、リリースによっては、アップグレード手順が異なる場合があります。株式会社ジゾンのサイトにある、特別なアップグレード方法を読んで確認してください。

HeartCore Web コンテンツ管理システムをアップグレードすることにより、いかなる Web サイトコンテンツや、その他のデータも変更、または削除されることはありません。しかし、念のため HeartCore Web コンテンツ管理システムをアップグレードする前に、常に既存プログラムファイル、データファイル、データベースのバックアップをとってください。もしアップグレードの最中に問題が生じても復旧させることが可能になります。

5.1 ダウンロードとインストール

HeartCore Web コンテンツ管理システムの新リリースをダウンロードしてインストールするには、初期インストールと同じように、適切なフォーマットにてパッケージをダウンロードして解凍し、Web サイトフォルダにコピーします。既存のプログラムファイルは、いくつかを除いては、新リリース内のプログラムファイルと置き換えます。アップグレードの際、（Web サイトのルートフォルダに配置されている）以下の既存ファイルについては、置き換えしないで保持してください。

ini.aspx / ini.jsp / ini.php
ini.webadmin.aspx / ini.webadmin.jsp / ini.webadmin.php
defaults.aspx / defaults.jsp / defaults.php

これらのファイルには Web サイトの設定が含まれています。誤ってこれらのファイルを書き換えてしまった場合は、Web サイトが正常に機能しない可能性があります。しかし、Web サイトの設定が失われたわけではなく、以下の Web アドレスを Web ブラウザで開く事によって回復します。

<http://127.0.0.1/webadmin/database/upgrade.aspx>

HeartCore Web コンテンツ管理システムの .NET 版をご利用されている場合

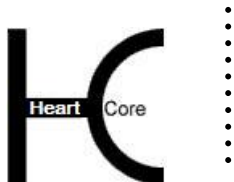
<http://127.0.0.1/webadmin/database/upgrade.jsp>

HeartCore Web コンテンツ管理システムの JSP 版をご利用されている場合

<http://127.0.0.1/webadmin/database/upgrade.php>

HeartCore Web コンテンツ管理システムの PHP 版をご利用されている場合

ご自分の Web サイトアドレスに“127.0.0.1”を書換え、Web サイトのスーパーユーザ管理者用のユーザ名とパスワードでログインする必要があることにご注意ください。



5.2 データベースアップグレード

HeartCore Web コンテンツ管理システムの最新版をインストールしたら即座に、常にスーパーユーザ Web サイト管理者でログインしてください。

HeartCore Web コンテンツ管理システムの最新版では、データベースモデルのアップグレードが要求されることがあります。最新版 HeartCore Web コンテンツ管理システムのインストール後、スーパーユーザ Web サイト管理者としてログインする際に、“データベースアップグレードの要求”のメッセージが表示される場合があります。その時には、ただ表示されたリンクを選択することで、自動的にデータベースがアップグレードされます。



6 国際化

The HeartCore Web コンテンツ管理システムは、国際化をサポートしており、全テキストをデフォルト言語（英語）以外の言語への翻訳と、各 Web サイト管理者の言語設定の自動検出が可能です。

6.1 HeartCore Web コンテンツ管理システムのテキスト

HeartCore Web コンテンツ管理システム内のテキストはすべて“/WEB-INF/classes/hardcore.properties”ファイルの中にあります。このファイルには、特定の言語が選択されていない、あるいは使用不可の場合に使用されるデフォルトテキストが含まれています。

全テキストを他の言語に翻訳して追加言語ファイルを作成することができます。デンマーク語の翻訳ファイルがデフォルトで含まれており、“/WEB-INF/classes/hardcore_da.properties”ファイルに、HeartCore Web コンテンツ管理システム内のテキストがすべてデンマーク語に訳されています。

追加で他の言語をサポートする場合は、単純に“/WEB-INF/classes/hardcore.properties” ファイルをコピーしてコンテンツを翻訳します。コピーしたファイル名は必ず“/WEB-INF/classes/hardcore_xx.properties”とし、“xx”には以下のような ISO 639 の言語コードを入れます。

- ar – アラビア語
- de – ドイツ語
- en – 英語
- es – スペイン語
- fr – フランス語
- ja – 日本語
- zh – 中国語

言語を変更するための追加言語ファイルはそれぞれの国に対応した翻訳をすることで作成することができます。言語変更をサポートするには、単純に“/WEB-INF/classes/hardcore.properties”ファイルか、他の言語ファイルをコピーし、コンテンツを翻訳します。コピーしたファイル名は必ず“/WEB-INF/classes/hardcore_xx_YY.properties”とし、“xx”には上記の ISO 639 の言語コードを入れ、“YY”は以下のような ISO 3166 の国別コードを入れます。

- AU – オーストラリア
- CA – カナダ
- GB – イギリス
- US – アメリカ合衆国

デフォルトの言語を変更するには、単純にデフォルトの英語の“/WEB-INF/classes/hardcore.properties”ファイルを他言語のファイルのコピーと置き換えます。

6.2 HeartCore Web コンテンツエディタのテキスト

HeartCore Web コンテンツエディタ内のテキストはすべて“/webadmin/webeditor/properties.js”ファイルの中にあります。このファイルには、特定の言語が選択されていない、あるいは使用不可の場合に使用されるデフォルトテキストが含まれています。



全テキストを他の言語に翻訳して追加言語ファイルを作成することができます。デンマーク語の翻訳ファイルがデフォルトで含まれており、“/webadmin/webeditor/properties_da.js”ファイルには HeartCore Web コンテンツエディタ内のテキストがすべてデンマーク語に訳されたものが含まれています。

追加で他の言語をサポートする場合は、単純に“/webadmin/webeditor/properties.js”ファイルをコピーしてコンテンツを翻訳（またその言語を以下に示されるとおり“/webadmin/webeditor/Webeditor.properties.js”に追加）します。コピーしたファイル名は必ず“/webadmin/webeditor/properties_xx.js”とし、“xx”には以下のような ISO 639 の言語コードを入れます。

- ar – アラビア語
- de – ドイツ語
- en – 英語
- es – スペイン語
- fr – フランス語
- ja – 日本語
- zh – 中国語

言語を変更するための追加言語ファイルはそれぞれの国に対応した翻訳をすることで作成することができます。他言語を追加サポートするには、単純に“/webadmin/webeditor/properties.js”ファイルか、他の言語ファイルをコピーし、コンテンツを翻訳します。コピーしたファイル名は必ず“/webadmin/webeditor/properties_xx_YY.js”とし、“xx”には上記の ISO 639 の言語コードを入れ、“YY”は以下のような ISO 3166 の国別コードを入れます。

- AU – オーストラリア
- CA – カナダ
- GB – イギリス
- US – アメリカ合衆国

デフォルトの言語を変更するには、単純にデフォルトの英語の“/webadmin/webeditor/properties.js”ファイルを他言語のファイルのコピーと置き換えます。

新言語ファイルのサポートを追加するには、“/webadmin/webeditor/Webeditor.properties.js”ファイルを変更する必要があります。ファイルの先頭にある以下の行に言語／国別コードを追加します。

```
var webeditor_languages = "|da|en|";
```

“/hardcore/Webeditor/properties_xx.js” という名の新言語ファイルのサポートを追加するにはこの行を次のように変更します。

```
var webeditor_languages = "|da|en|xx|";
```

“/hardcore/Webeditor/properties_xx_YY.js” という名の新言語ファイルのサポートを追加するにはこの行を次のように変更します。

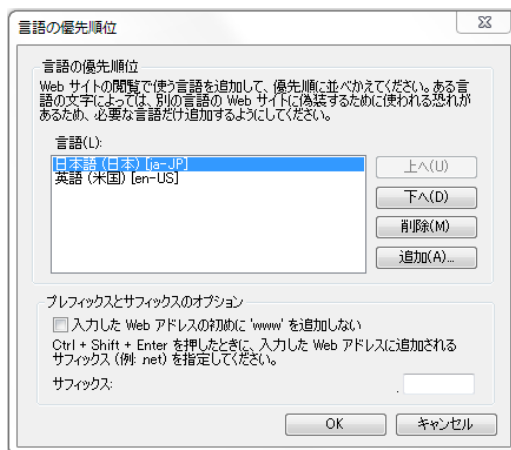
```
var webeditor_languages = "|da|en|xx_YY|";
```

言語／国別コードは|の文字で区切られ、囲まれている必要があります。 .

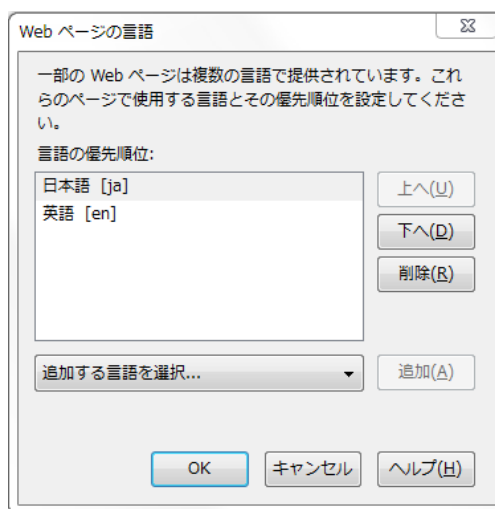
6.3 Web サイト管理者の言語選択

HeartCore Web コンテンツ管理システムで使用される言語は、それぞれの Web サイト管理者が使用しているブラウザの言語の優先設定によって選択されます。

Microsoft Internet Explorer の言語選択をする場合、ツール-インターネットオプション-全般-言語メニュー/ウィンドウを使って選択することができます。詳細については、Microsoft Internet Explorer のドキュメントを参照してください。



MozillaFirefox の言語選択をする場合、ツール-オプション-コンテンツ-言語設定メニュー/ウィンドウを使って選択することができます。



HeartCore Web コンテンツ管理システムは選択された Web ブラウザの言語設定を検出し、選択された言語のうち、使用可能なひとつを使います。選択された言語がどれも使用不可の場合は、デフォルトの言語が使用されます。

7 追加モジュール、拡張、プログラミング API スクリプト

7.1 カスタム / サードパーティ製追加モジュール

HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、独自のカスタム追加モジュールを作成したり、サードパーティ製の追加モジュールを使用したりすることができます。

カスタム / サードパーティ製追加モジュールを HeartCore Web コンテンツ管理システム管理ページと統合し、独自の管理セクションやメニュー項目を既存の管理セクションに追加することができます。

カスタム / サードパーティ製追加モジュールは、E コマース追加モジュールと併せて使用する決済サービスプロバイダモジュールでも可能です。

7.1.1 インストールと設定

追加モジュールを追加でインストールするには、モジュールファイルを Web サーバに（デフォルトでは、"/webadmin/module/" フォルダ内の新規フォルダとして）コピーします。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、追加の追加モジュールをロードするよう設定されている必要があります。"/webadmin/module/config.xxx"ファイル（"xxx"は、使用する HeartCore Web コンテンツ管理システムのバージョンにより、"asp", "jsp" または "php"）を編集し、ファイルの一番下に 1 行追加します。例えば、"example"というモジュールを有効にするには、次の行を追加します。

- .NET:
<!-- #include file="example/config.aspx" -->
- JSP:
<% @ include file=" example /config.jsp" %>
- PHP:
<?php include " example /config.php"; ?>

複数の追加モジュールが設定されている場合、ここでの設定順により Web コンテンツ管理システムのこれらの管理セクションやメニュー項目の表示順が決まります。

7.2 カスタム / サードパーティ拡張

HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、独自のカスタム拡張を作成したり、サードパーティ製の拡張を使用したりすることができます。

カスタム / サードパーティ製の拡張を HeartCore Web コンテンツ管理システムと連携し、Web コンテンツ管理システム以外の他のアプリケーションから、コンテンツを使用することができます。

7.2.1 インストールと設定

追加の拡張をインストールするには、拡張ファイルを Web サーバ（デフォルトでは、"/webadmin/extension/" フォルダ内の新規フォルダとして）にコピーします。設定は必要ありません。

7.3 商品在庫確認・商品配信 カスタム/サードパーティ拡張

HeartCore Web コンテンツ管理システムのEコマース追加モジュールでは、独自の商品在庫確認・配信カスタム拡張を作成したり、サードパーティ製の拡張を使用することができます。

商品在庫確認・配信カスタム/サードパーティ拡張を、HeartCore Web コンテンツ管理システムのEコマース追加モジュールと連携すると、Web コンテンツ管理システム以外のアプリケーションを使って、商品の在庫を確認したり、自動配信を行うことが可能になります。

7.3.1 商品在庫確認 カスタム/サードパーティ拡張

商品在庫確認 カスタム/サードパーティ拡張は、商品が購入可能かどうかを調べるために、商品、ショッピングカート、チェックアウトページにおいて使用することができます。

例えば、自身の外部在庫確認や棚卸システムをチェックし、商品の在庫があるかどうかを調べます。もしくは、業者側の外部在庫確認や棚卸システムをチェックし、商品の在庫があるか、また注文できるかどうかを調べます。また、ユーザ名、メールアドレス、インターネットドメイン名などのような現物のない商品の確認や、それらがすでに登録済みかどうかを調べます。

7.3.1.1 インストールと設定

追加の商品配信拡張をインストールするには、拡張ファイルを Web サーバへ（デフォルトでは、"/webadmin/productavailability/" フォルダ内の新規ファイルとして）コピーする必要があります。設定は必要ありません。

7.3.2 商品配信 カスタム/サードパーティ拡張

商品配信カスタム/サードパーティ拡張は、自動的にデジタル商品を作成し、商品が注文された際に外部システムを更新するために使用されます。例えば、自身の外部在庫状況や棚卸システムを更新したり、供給業者へ注文したりします。もしくは、ユーザ名、メールアドレス、インターネットドメイン名などのような現物のない商品を作成/配信します。

7.3.2.1 インストールと設定

追加の商品配信拡張をインストールするには、拡張ファイルを Web サーバへ（デフォルトでは、"/webadmin/productdelivery/"フォルダ内の新規ファイルとして）コピーする必要があります。特に設定などは必要ありません。

7.4 ワークフローアクションカスタム/サードパーティ拡張

HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、独自のワークフローアクションカスタム拡張を作成したり、サードパーティ製の拡張を使用することができます。

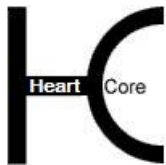
ワークフローアクションカスタム/サードパーティ拡張を、HeartCore Web コンテンツ管理システムと連携すると、Web コンテンツ管理システム以外のアプリケーションを使って、コンテンツの管理アクションを作成および記録することが可能になります。

7.4.1 インストールと設定

追加のワークフローアクション拡張をインストールするには、拡張ファイルを Web サーバへ（デフォルトでは、"/webadmin/workflowaction/"フォルダ内の新規ファイルとして）コピーする必要があります。特に設定などは必要ありません。

7.5 Web コンテンツエディタカスタム/サードパーティ拡張

HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、独自の Web コンテンツエディタカスタム拡張を作成したり、サードパーティ製の拡張を使用することができます。



Web コンテンツエディタカスタム/サードパーティ拡張を、HeartCore Web コンテンツ管理システムと連携すると、Web コンテンツ管理システムに含まれている HeartCore Web コンテンツエディタ以外の Web コンテンツエディタを使用することが可能になります。

7.5.1 インストールと設定

追加の Web コンテンツエディタ拡張をインストールするには、拡張ファイルを Web サーバへ（デフォルトでは、"/webadmin/webeditors/EXTENSION NAME/" フォルダ内の新規ファイルとして）コピーする必要があります。特に設定などは必要ありません。

7.6 プログラミング API スクリプト

独自のカスタムプログラムスクリプトを使って、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムの機能を拡張したり、カスタマイズすることができます。

7.6.1 インストールと設定

プログラム API スクリプトをインストールするには、Web サーバへコピーする必要があります（デフォルトでは、"/webadmin/api/" 配下のフォルダ）。設定は必要ありません。

7.6.2 外部 Web サイト公開/アーカイブプログラミング API

デフォルトでは、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムは実際の Web サイト上で動作し、動的に Web サイトコンテンツを配信します。しかし、Web コンテンツ管理システム内で、例えば、他の Web サーバやアーカイブ/バックアップサーバにファイルをコピーするなど、コンテンツ項目が公開される際、または非公開される際に独自のプログラムスクリプトを実行させるようにプログラムしたい場合があります。

“静的ファイル名”を持つ新規もしくは更新済コンテンツ項目が公開されると、Web コンテンツ管理システムは、“/webadmin/api/published”、“/webadmin/api/published.bat”、“/webadmin/api/published.sh” ファイルが存在するかをチェックし、公開されたコンテンツ項目の静的ファイル名をパラメータとして実行します。

“静的ファイル名”を持つコンテンツ項目が非公開にされると、Web コンテンツ管理システムは“/webadmin/api/unpublished”、“/webadmin/api/unpublished.bat”、“/webadmin/api/unpublished.sh” ファイルが存在するかをチェックし、公開されたコンテンツ項目の静的ファイル名をパラメータとして実行します。

7.6.3 ファイルアップロードプログラミング API

デフォルトでは、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムはアップロードされたイメージとその他のファイルを、コンテンツ項目として Web コンテンツ管理システムに追加します。しかし、イメージまたはファイルが Web コンテンツ管理システムにアップロードされる際に、ファイルのウイルスチェックをしたり、他のフォーマットやサイズにファイルを変換するための独自のプログラムを実行したい場合があります。

“イメージ” または “ファイル” がアップロードされる際、Web コンテンツ管理システムは、“/webadmin/api/image”、“/webadmin/api/image.bat”、“/webadmin/api/image.sh”、“/webadmin/api/file”、“/webadmin/api/file.bat”、“/webadmin/api/file.sh” のファイルが存在するかをチェックし、アップロードされたファイルのファイル名をパラメータとして実行します。プログラムスクリプトは、プログラムスクリプトが何をするか、また Web コンテンツ管理システムが何をなすかによって、以下を出力/返します。

- パラメータとしてプログラムスクリプトに渡されたファイル名
プログラムスクリプトが、アップロード済ファイルをリネーム、移動、または削除していない場合

- アップロードされたファイルの新しいファイル名
プログラムスクリプトがアップロード済ファイルをリネーム、または移動していた場合。
Web コンテンツ管理システムは、コンテンツ項目を新しいファイル名で更新します。
- 何もしない
プログラムスクリプトがアップロード済ファイルを削除していた場合。Web コンテンツ管理システムもまた、コンテンツ項目を削除します。

“イメージ” または “ファイル” がアップロードされると、Web コンテンツ管理システムは以下のファイルが存在するかチェックします。

“/webadmin/api/image1”, “/webadmin/api/image1.bat”, “/webadmin/api/image1.sh”,
“/webadmin/api/image2”, “/webadmin/api/image2.bat”, “/webadmin/api/image2.sh”,
“/webadmin/api/image3”, “/webadmin/api/image3.bat”, “/webadmin/api/image3.sh”,
“/webadmin/api/file1”, “/webadmin/api/file1.bat”, “/webadmin/api/file1.sh”, “/webadmin/api/file2”,
“/webadmin/api/file2.bat”, “/webadmin/api/file2.sh”, “/webadmin/api/file3”, “/webadmin/api/file3.bat” or
“/webadmin/api/file3.sh”

そして、アップロードされたファイルのファイル名をパラメータとして実行します。プログラムスクリプトは、プログラムスクリプトが何をするか、また Web コンテンツ管理システムが何をなすかによって、以下を出力/返します。

- アップロード済ファイルの新しい、代替コピーのファイル名
例えば、イメージの低い解像度のバージョン、または、Microsoft Word ドキュメントの PDF バージョン、または、プログラムファイルの圧縮バージョンなど。Web コンテンツ管理システムは、新しいファイルに対して追加のコンテンツ項目を作成します。元のアップロードされたファイルのコンテンツ項目の対応する追加コンテンツ/イメージ 1/イメージ 2/イメージ 3/ファイル 1/ファイル 2/ファイル 3 の属性は、新しい、代替ファイルのコンテンツ項目を指します。新しい、代替ファイルのコンテンツ項目の関連コンテンツ/ページアップ属性は、元のアップロードされたファイルのコンテンツ項目を指します。
- 何もしない
プログラムスクリプトが、アップロード済ファイルの新しい、代替コピーを作成していない場合。Web コンテンツ管理システムは、追加のコンテンツ項目を作成しません。

7.6.4 コンテンツデータ検証 プログラミング API

Web サイトコンテンツに対し特別な要件がある場合、コンテンツが Web コンテンツ管理システムに保存される時/前に検証されるよう、独自のプログラムスクリプトをプログラムすることが可能です。プログラムスクリプト“/webadmin/api/validatecontent.xxx” (“xxx” を該当のプログラミング言語拡張子に置き換える: “aspx”, “jsp” “php”) が存在する場合、コンテンツが追加または更新されて保存される際に、実行されます。コンテンツのデータは、標準 HTML POST フォームデータとしてプログラムスクリプトへポストされます。

そうすると、ポストされたコンテンツ項目データは検証され、プログラムスクリプトが構造化レスポンスを Web コンテンツ管理システムへ返します。

- “OK”
コンテンツ項目データは OK、コンテンツは保存されます。
- “OK:ALERT:MESSAGE”
コンテンツ項目データは OK、コンテンツは保存されます。“MESSAGE”が Web サイト管理者へ表示されます (“MESSAGE”を独自の文字列に置き換える)。

- “ERROR:CONFIRM:MESSAGE”
コンテンツ項目データに問題がある可能性があり、Web サイト管理者はコンテンツを保存するか、キャンセルするか、再編集するか確認するよう“MESSAGE”で促されます（“MESSAGE”を独自の文字列に置き換える）。
- “ERROR:ALERT:MESSAGE”
コンテンツ項目データに問題があり、コンテンツは保存されません。“MESSAGE”が Web サイト管理者へ表示され、コンテンツを保存するには編集し直す必要があります（“MESSAGE”を独自の文字列に置き換える）。

7.6.5 ユーザデータ認証プログラミング API

Web サイトユーザアカウントに対し特別な要件がある場合、ユーザデータが Web コンテンツ管理システムに保存される時／前に検証されるよう、独自のプログラムスクリプトをプログラムすることが可能です。プログラムスクリプト“/webadmin/api/validateuser.xxx” (“xxx”を該当のプログラミング言語拡張子に置き換える: “aspx”, “jsp” “php”) が存在する場合、ユーザアカウントが追加または更新されて保存される際、また Web サイト上でのユーザ登録際に実行されます。ユーザアカウントのデータは、標準 HTML POST フォームデータとしてプログラムスクリプトへポストされます。

そうすると、ポストされたユーザアカウントデータは検証され、プログラムスクリプトが構造レスポンスを Web コンテンツ管理システムへ返します。

- “OK”
ユーザアカウントデータは OK、ユーザアカウントは保存されます。
- “OK:ALERT:MESSAGE”
ユーザアカウントデータは OK、ユーザアカウントは保存されます。“MESSAGE”が Web サイト管理者へ表示されます（“MESSAGE”を独自の文字列に置き換える）。Web サイトユーザ登録では、“MESSAGE”が Web サイトユーザへ表示されます。
- “ERROR:CONFIRM:MESSAGE”
ユーザアカウントデータに問題がある可能性があり、Web サイト管理者はユーザアカウントを保存するか、キャンセルするか、再編集するか確認するよう“MESSAGE”で促されます（“MESSAGE”を独自の文字列に置き換える）。Web サイトユーザ登録では、“MESSAGE”が Web サイトユーザへ表示されます。
- “ERROR:ALERT:MESSAGE”
ユーザアカウントデータに問題があり、ユーザアカウントは保存されません。“MESSAGE”が Web サイト管理者へ表示され、ユーザアカウントを保存するには編集し直す必要があります（“MESSAGE”を独自の文字列に置き換える）。Web サイトユーザ登録では、“MESSAGE”が Web サイトユーザへ表示されます。

7.6.6 メディアクラウドストレージ API

デフォルトでは、Web サイトのイメージやファイルは、サーバに格納されます。Web サイトおよび HeartCore Web コンテンツ管理システムが、複数サーバのクラスタ上で動作している場合は、すべてのサーバでイメージやファイルを参照できるように、共有ファイルストレージやミラー／複製ファイルストレージのセットアップが必要です。代わりに、クラウドストレージサービス（もしくは異なるタイプの共有ストレージサービス）を使用することも可能です。

Web コンテンツ管理システムの「設定」 > 「システム」 > 「ウェブサイト」 > 「メディアストレージ」 > 「クラウドストレージ」にて、クラウドストレージの使用が設定されると、イメー

ジやファイルのアップロード時、コピー時、移動/リネーム時、削除時、ダウンロード時に、”/webadmin/api/” プログラムスクリプトが実行されるようになります。

- /webadmin/api/exists.xxx (“xxx”は、“aspx” “jsp” “php”のいずれかと置き換えてください)
指定したイメージやファイルが、クラウドストレージに存在するか否かを判断します。
- /webadmin/api/upload.xxx (“xxx”は、“aspx” “jsp” “php”のいずれかと置き換えてください)
新規にアップロードされたイメージやファイルを、クラウドストレージへアップロードします。
- /webadmin/api/copy.xxx (“xxx”は、“aspx” “jsp” “php”のいずれかと置き換えてください)
コピーされたイメージやファイルを、クラウドストレージへコピーします。
- /webadmin/api/move.xxx (“xxx”は、“aspx” “jsp” “php”のいずれかと置き換えてください)
移動/リネームされたイメージやファイルを、クラウドストレージ上で移動/リネームします。
- /webadmin/api/delete.xxx (“xxx”は、“aspx” “jsp” “php”のいずれかと置き換えてください)
削除されたイメージやファイルを、クラウドストレージから削除します。
- /webadmin/api/download.xxx (“xxx”は、“aspx” “jsp” “php”のいずれかと置き換えてください)
変更された、もしくは存在しないイメージやファイルがアクセスされると、クラウドストレージからダウンロードします。

これらの”/webadmin/api/” プログラムスクリプトは、Web コンテンツ管理システムに含まれており、様々なクラウドサービスプロバイダに対応しています。また、プログラムコード内には、プレースホルダコメントも用意されており、独自もしくはサードパーティのクラウドストレージサービスプロバイダ向けに、カスタムプログラムを追加することが可能です。詳しくは、お手元の各”/webadmin/api/” プログラムスクリプトをご参照ください。

7.6.7 クラウドデプロイメント API

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、自社サーバにインストールする他、ホスティングサービスやクラウドホスティングサービスを使用することができます。

Web コンテンツ管理システムをクラウド上にインストールし、Web サーバの追加による動的拡張性を持たせる場合、新たに Web サーバが追加された際に、設定しているデータベースサーバとメディアクラウドストレージを自動で検出して接続させる必要があります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、データベースサーバの自動検出および自動接続を備えた様々なクラウドホスティングサービスとデータベースサーバを、デフォルトでサポートしています。デフォルトでサポートされていないクラウドホスティングサービスやデータベースを使って Web コンテンツ管理システムを運用するには、設定しているデータベースサーバが自動で検出され、データベース接続文字列が自動生成されるよう、独自にプログラムコードを追加する必要があります。

データベース接続およびメディアクラウドストレージのクラウドデプロイメント検出は、”/config.cloud.xxx” という特殊設定プログラムスクリプトによって処理されます (“xxx”は、“aspx” “jsp” “php”のいずれかと置き換えてください)。他のクラウドホスティングサービスプロバイダやデータベースサーバへのサポートを追加するには、このプログラムスクリプトを開いて、独自のプログラムコードを追加します。

- サーバ環境変数からクラウドデプロイメント設定を検出可能にします。もしくは他の方法によって、クラウドホスティングサービスが設定を取得できるようにします。
- “database” を、データベースサーバのデータベース接続文字列にセットします。
「設定」 > 「システム」 > 「データベース」 > 「データベース接続」に入力するのと同じ要領です。
- “database_ini” を、任意の SQL コマンドにセットします。データベースサーバの作成や初期化に必要となります。
- “csservice” を、サポートしているメディアクラウドストレージサービスプロバイダの中からいずれかにセットします。もしくは、別のクラウドストレージサービスプロバイダのユニーク ID/ユニーク名にセットします。この設定は、メディアクラウドストレージ API で説明したプログラムスクリプトでも使用します。
- “csusername”、“cspassword”、“csrootpath”、“csURLrootpath”を、それぞれ該当する値にセットします。
「設定」 > 「システム」 > 「ウェブサイト」 > 「メディアストレージ」に入力するのと同じ要領です。

7.6.8 Usalog データ要約

HeartCore Web コンテンツ管理システムのアドオンモジュールには、データベースの使用量を抑えるため、古いログデータを定期的にサマライズする機能が備わっています。サマライズの実行は、管理画面から手動で行うこともできますし、自動でも可能です。自動で行うには、お使いのオペレーションシステムの一般的な機能を用いて、定期的にプログラムを実行し、Web コンテンツ管理システムのログデータ要約機能へアクセスしてください。

重要: Web サーバ上でローカルに実行するか、もしくはネットワーク接続を行う場合は、暗号化することを強く推奨します。

<http://localhost/webadmin/usage/summarise.aspx?username=USERNAME&password=PASSWORD>

<https://www.yourwebsite.com/webadmin/usage/summarise.aspx?username=USERNAME&password=PASSWORD>

一度のアクセスで実行できるサマライズは、設定している要約期間に基づいて 1 期間のみです。従って、設定している要約期間と（最低でも）同じ頻度で実行されることが望ましいです。（とはいえ、頻度を少なくすれば、要約が完了するまでの時間的な余裕は生まれます。）